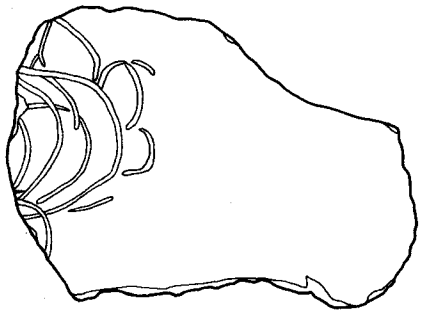
屋敷II遺跡

公共開発（社会福祉複合施設建設）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1996

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

屋敷II遺跡



H－19号住居址出土の線刻土器片

1996

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

口絵　1．屋敷II遺跡出土の土器

口絵　2．D－9号土坑出土の土器

序

前橋市は北に関東平野を一望できる雄大な赤城山をいだき、西に榛名山を仰ぎ、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川清流が市街地を貫流する、水と緑にあふれた美しい県都であります。

市では、教育文化・商工業の調和のある「豊かで素晴らしい社会を築く街づくり」を進めており、その一つとして元総社地区に「シルバーワークプラザ、障害者第三福祉作業所及び心身障害者デイサービス施設複合施設」を建設することになりました。

この元総社地区は、古代において上野国府が置かれた地区とされ、古代上野の中心地として栄えたところで、近くに総社神社、蒼海城更に国分僧寺国分尼寺跡等の数々の文化財が残されています。

それだけに今回の調査は重要な地として位置付けられ、歴史の解明に力を注いだところであります。その結果、古墳時代の住居址や平安時代の住居址、掘立柱建物の柱穴等が検出され、古代～中世にかけ人々の生活が営々として続けられていることがわかりました。

今回の調査に伴う幾多の遺物や記録資料等に検討を加え、今までの周辺の調査記録に貴重な１頁として加え、社会教育、学校教育の場に十分活用して行く考えをもっています。

最後に、社会福祉課や地元の方、例年にない暑さの中で発掘作業に従事して頂いた作業員の方々、更に発掘成果の整理にあたり、指導助言頂いた関係機関や各方面の方々に厚く御礼申し上げます。

平成８年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　大谷輝治

例　　言

1．本報告書は、前橋市が計画する社会福祉複合施設建設事業に伴う発掘調査報告書である。

2．遺跡は、群馬県前橋市元総社町2578-88ほかに所在する。

3．調査は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団団長　大谷輝治が前橋市長　藤嶋清多と委託契約を締結し実施した。

4．調査担当および調査期間は以下のとおりである。

発掘・整理担当者　　戸所慎策・吉田聖二（前橋市埋蔵文化財発掘調査団調査係）

発掘調査期間　　平成７年６月５日～平成７年８月23日

整理・報告書作成期間　　平成７年12月１日～平成８年３月25日

5．本書の原稿執筆は戸所・吉田が行った。整理作業をはじめ報告書の作成には、大島きく江・園部千花・多田啓子・塚本富江の協力があった。

6．瓦の鑑定については、木津博明氏（財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団）のご指導をいただいた。

7．発掘調査で出土した遺物は、当調査団より前橋市教育委員会に保管責任を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は座標北である。

2．挿図に建設省国土地理院発行の１／20万地形図（長野・宇都宮）と１／2.5万地形図（前橋）を使用した。

3．本遺跡の略称は７Ａ73である。

4．各遺構の略称は次のとおりである。

Ｈ…古墳・平安時代の住居址、Ｉ…井戸、Ｄ…土坑、Ｐ…柱穴、Ｗ…溝（傾斜地）

5．遺構・遺物の実測図の縮尺は次のとおりである。

遺構　　住居址・井戸・土坑…１／80、竈…１／40、全体図…１／200

遺物　　土器・石器…１／３、１／４、瓦…１／４、石製品…１／２、１／３、１／４

6．スクリントーンの使用は次のとおりである。

遺構平面図　　焼土…点、傾斜地…濃点

遺構断面図　　火山灰…濃点、構築面…斜線

遺物実測図　　黒色処理…網

須恵器断面…黒塗り

土器使用痕…細斜線、石器使用痕…縦線

目　　次

序
I　調査に至る経緯……1
II　遺跡の位置と環境
　1　遺跡の立地……1
　2　歴史的環境……1
III　調査の経過
　1　調査方針……3
　2　調査経過……3
IV　層　　序……4
V　遺構と遺物
　1　住居址……4
　2　井戸……8
　3　土坑……8
　4　柱穴……9
　5　焼土……9
　6　グリッド出土の遺物……9
VI　まとめ……11

図版

口絵1　屋敷II遺跡出土の土器
PL. 1　調査区全景
〃 2　調査前風景・柱穴列・H－1・2号住居址
〃 3　H－3～9号住居址
〃 4　H－9～12号住居址
〃 5　H－13～17・19・20号住居址
〃 6　H－20～23号住居址
〃 7　H－25～28号住居址・グリッド出土遺物・溝・井戸
口絵2　D－9号土坑出土の土器
PL. 8　D－8・9・13・14号土坑
〃 9　H－1～12・14・15号住居址出土の土器
〃 10　H－15・17・19～21・23号住居址出土の土器
〃 11　H－23・25～27号住居址・グリッド出土の土器・H－10号住居址出土の石
〃 12　D－9号土坑出土の土器
〃 13　臼玉・石器
〃 14　瓦

挿図

頁
Fig. 1　屋敷II遺跡の位置……iv
〃 2　周辺遺跡……2
〃 3　調査経過図……3
〃 4　標準土層図……4
〃 5　全体図……5
〃 6　柱穴……12
〃 7　H－1～4号住居址……16
〃 8　H－5～7・12号住居址……17
〃 9　H－8～10号住居址……18
〃 10　H－11・13・14・22号住居址……19
〃 11　H－15～17・25号住居址……20
〃 12　H－19～21号住居址……21
〃 13　H－23・26～28号住居址・D－9・13・14号土坑・I－1号井戸……22
〃 14　H－1～12・14・15・17号住居址出土の土器…23
〃 15　H－17・19～21・23号住居址出土の土器……24
〃 16　H－25～27号住居址・グリッド・D－8号土坑出土の土器……25
〃 17　D－9号土坑出土の土器……26
〃 18　H－16・17・20号住居址出土の瓦(1)……27
〃 19　H－21・27号住居址・W－1号溝址・グリッド出土の瓦(2)……28
〃 20　臼玉・石器……29

表

頁
Tab. 1　土坑観察表……9
〃 2　柱穴観察表……10
〃 3　石器観察表……13
Tab. 4　土器観察表……14
〃 5　瓦観察表……15

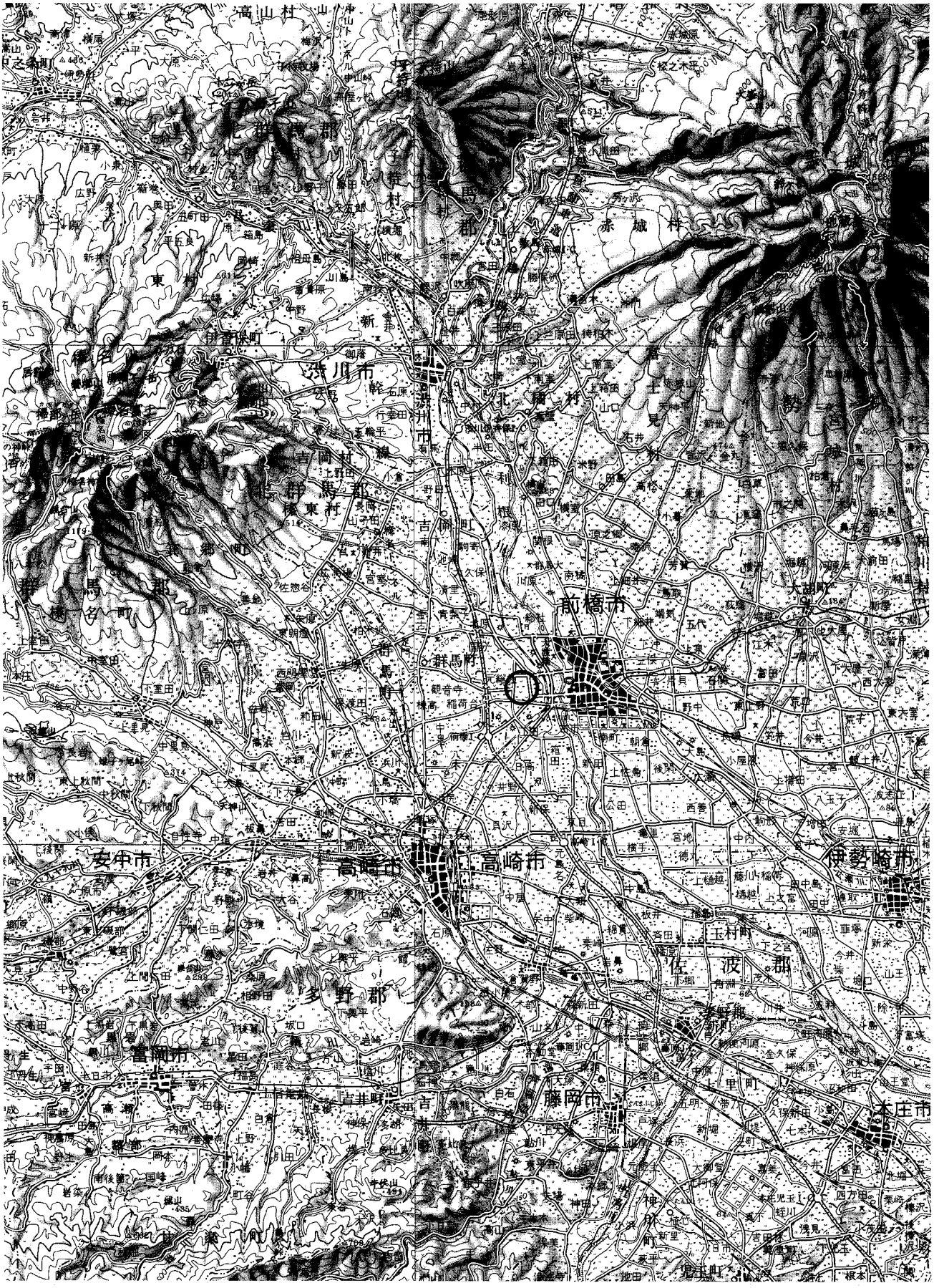


Fig. 1　屋敷II遺跡の位置

Ⅰ　調査に至る経緯

本発掘調査に関しては、平成７年１月23日に社会福祉部社会福祉課及び高齢福祉課より元総社町に「シルバーワークプラザ、障害者第三福祉作業所及び心身障害者デイサービス施設複合施設建設」事業実施の照会があり、埋蔵文化財の取り扱いについて事前に試掘調査が必要であるむね通知を送り協議を行った。その後、平成７年２月９日、前橋市教育委員会による試掘の結果、古墳時代から平安時代までの住居址６軒の竈址が検出されたため、開発事業の実施に際しては、これに先立って埋蔵文化財記録保存のための発掘調査を実施することが社会福祉課との間で確認された。４月12日に前橋市長から前橋市教育委員会教育長あてに発掘調査の依頼があった。その後の手続きは前橋市教育委員会が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団に移管された。５月24日に発掘調査に関する委託契約を前橋市長との間で締結した。そして、６月５日から現地での発掘調査を開始するに至った。

遺跡名称の『屋敷』は現地の小字名を採用した。なお、昭和61年にマンション建設に伴い『屋敷遺跡』の調査を実施しているので、本発掘調査の遺跡名は『屋敷Ⅱ遺跡』とした。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１　遺跡の立地

屋敷Ⅱ遺跡の立地する前橋台地は、約24000年前に浅間山の爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。屋敷Ⅱ遺跡が所在する前橋市元総社町2578-88番地ほかは、利根川の右岸に位置し、群馬県庁から西に３㎞の所にある。本遺跡地の南側に国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線、東側に市道大友・石倉線が通る。遺跡は、県道足門・前橋線の北30mにあり、上野国総社神社は南側に位置する。これらの幹線道路を中心にオフィスビルや商店・住宅が建ち並び、現状を明らかにすることはできないが、北西から南東へ向かってわずかずつ傾斜している地形が窺える。

２　歴史的環境

本遺跡地周辺は、推定上野国府域①として古代史の注目を浴び、さらに中世には蒼海城が築かれた環境にある。

縄文時代の遺跡としては、上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡②や産業道路西遺跡③で検出された前期・中期の集落は当地域の縄文文化を考える上で重要な資料といえる。その他に熊野谷遺跡④、下東西遺跡⑤、清里南部遺跡群⑥、中島遺跡⑦、長久保遺跡⑧などがあり、時期的には前期から後期の範囲に及んでいる。

弥生時代の遺跡の調査例は少なく、中期後半の環濠集落址である清里・庚申塚遺跡⑨と後期の住居址が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域遺跡②、桜ヶ丘遺跡⑩、下東西遺跡⑤等に散見するだけである。井野川、染谷川流域に比べ格段の差を生じるのは、本地域が高燥化した土地であることの地形的要因に帰するためであろう。

古墳時代の遺跡としては、６世紀前半代の王山古墳⑪から始まり、総社二子山古墳⑫、遠見山古墳⑬、愛宕山古墳⑭、県内最終末期と考えられる仏教文化の影響を強く受けた宝塔山古墳⑮、蛇穴山古墳⑯などがある。山王廃寺⑰にみられる石造物群は、宝塔山古墳石棺や蛇穴山古墳石室と同系列の石造技術を駆使して加工されたと考えられている。その共通する技法から時代決定の根拠とされ、白鳳期の建立と考えられる山王廃寺を中心にして、総社・元総社周辺では、仏教文化が古墳文化と併存しながら花開いた様子が窺える。

奈良・平安時代には、上野国府、国分僧寺⑱・国分尼寺⑲等の建設とあいまって、当地域は古代上野国の政治的・文化的中心地としての様相を呈してくる。

中世には、蒼海城が築かれ（1429年）、長尾氏の城下となったようである。現在の街路の祖形は、蒼海城の堀割りが道路と変化したものである。また、蒼海城の縄張り自体も国府跡を利用していると考えられるため、国府解明が一層複雑なものとなっている。

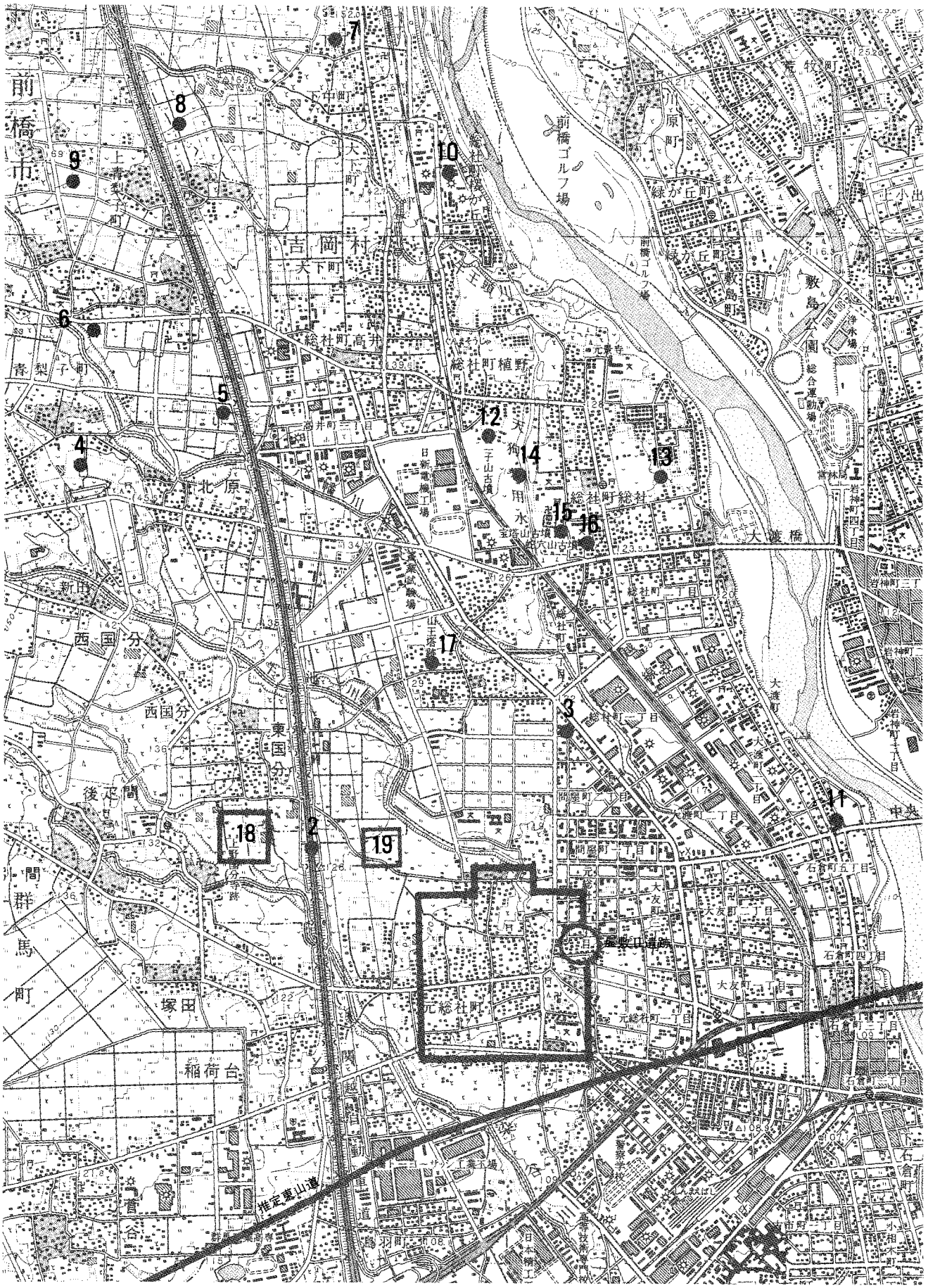

前橋市
吉岡村
総社町
総社町植野
総社町総社
元総社町
大渡橋
前橋ゴルフ場
敷島公園総合運動場
北原
西国分
東国分
後閑
塚田
稲荷台
推定東山道
屋敷口遺跡
7
8
9
10
5
6
4
12
14
13
15
16
17
3
11
18
2
19

Fig. 2　周辺遺跡

III　調査の経過

1　調査方針

委託された調査面積は建物の建設予定地の589m²である。調査実施に際しては、発掘調査範囲の全域をカバーする４mグリッドを設定し、最小単位とした。各グリッドの呼称方法は、南北方向をＹ軸とし、北から南へＹ１、Ｙ２、Ｙ３…、東西方向をＸ軸とし、西からＸ１、Ｘ２、Ｘ３…、で表し、それぞれ北西の交点をグリッド名とした。その他、調査実施段階での方針は以下のとおりである。

1．土層観察は遺構中央部で交差するセクションベルトを設けて行う。

2．10cm四方以上の遺物は縮尺１/20にて図化し、それ以下についてはドット標記した平面図を作製し、取上に際しては遺物台帳に諸属性を記録する。

3．竈は原則として縮尺１/10で図化し、遺構平面図は原則として１/20にて実施する。なお、測量の基準点はＸ６－Ｙ６グリッドで公共座標は第IX系（Ｘ＝＋43156.000、Ｙ＝－70996.000）である。

2　調査経過

５月24日に委託契約の締結を行い、現地での発掘調査は、６月５日から始まった。まず、重機（バックフォー0.4m³）により、III層の上面が検出されるまで南東方向から表土掘削を開始した。表土掘削に追従してプラン確認を行った。しかし、粘性の強い褐色土層主体の地層構成のため、遺構の検出は困難を極めた。試掘では検出できなかったAs－B混じりの柱穴が確認されたため、III層までの表土掘削となった。６月８日にグリッド、ベンチマークの杭打ち業務を行った。作業員による遺構の掘り下げは６月８日から開始した。しかし、雨で遺構に水やノロがたまり、それらを除去するのに多くの時間を費やすこととなり、作業効率はよくなかった。調査期間中15日間が雨で外作業ができなかった。

設計変更により調査面積が増加し、調査面が２面になったことなどにより社会福祉課と協議を行い、７月20日に変更契約を締結した。

７月17日に１面の調査を終了し、18日から２面の表土掘削を重機（バックフォー0.4m³）で行った。残土は近くの残土置き場に10トンダンプで搬出した。住居址は竈の焼土を目安にプラン確認を行ったが、切り合いが多くはっきりとした住居址の壁の検出は難しかった。８月７日から平面測量、10日にはラジコンヘリコプターによる全景写真撮影の委託業務を行った。作業員による作業は８月11日で終了した。埋め戻しは８月21日から23日まで重機（バックフォー0.7m³）で行った。次の発掘調査現場との関係で９月１日に引っ越しをして、現場でのすべての作業を終了した。

遺物整理・報告書の作成は、総社愛宕山遺跡の発掘調査が終了した12月１日から３月25日まで実施した。

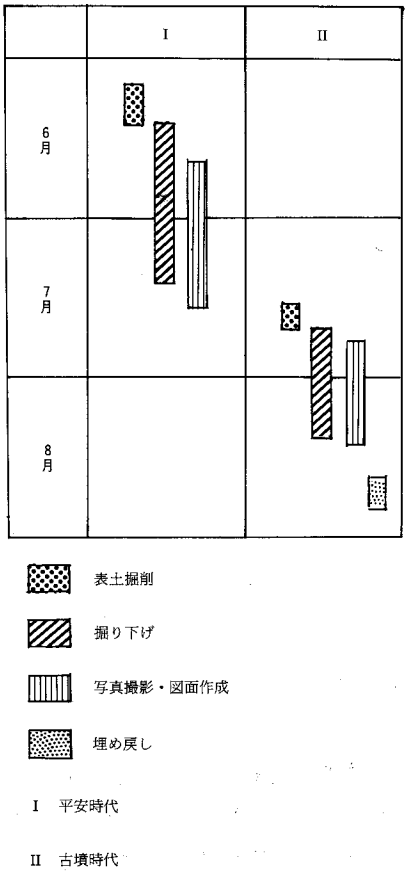


Fig. 3　調査経過図

Ⅳ 層　　序

本遺跡の井戸Ⅰ－１号の深堀から観察される土層と社会福祉複合施設建設に伴って実施した地質調査（田中鑿泉重工株式会社）を参考にして標準土層図を作成した。

上位Ⅰ・Ⅱ層の厚さ１mほどは人為的に施工した埋土である。下位の段丘性堆積物のシルトと砂の互層からなる。これらの地層はほぼ水平に堆積している。　遺構はⅢ・Ⅳ層から検出された。

Ⅰ層：褐色細砂層。耕作土。

Ⅱ層：褐色細砂層。As－Bを30～40％含む。

Ⅲ層：褐色微砂層。炭化物・焼土を少量含む。

Ⅳ層：褐色微砂層。炭化物・焼土を少量含む。As－Cを少量含む。

Ⅴ層：ローム漸移層。

Ⅵ層：総社砂層。砂、シルトの互層。縄文時代に形成。

Ⅶ層：前橋泥炭層。

Ⅷ層：相馬ケ原扇状地堆積物。

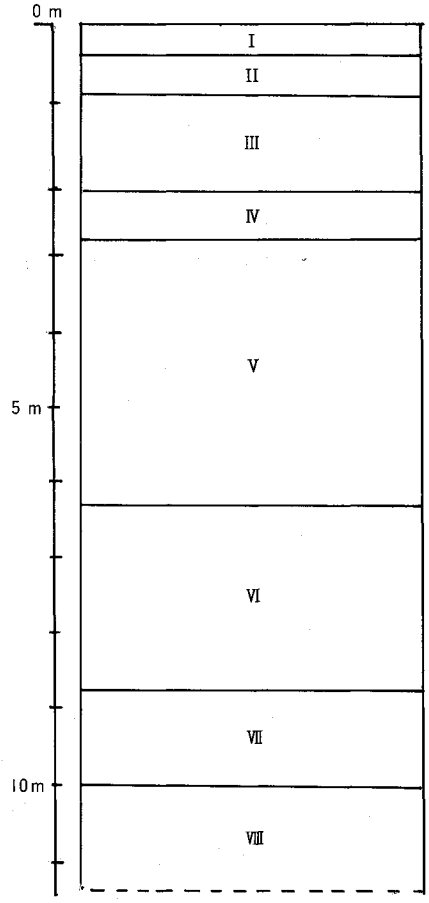


Fig. 4　標準土層図

Ⅴ　遺構と遺物

本遺跡から検出された遺構は竪穴住居址26軒、井戸２基、土坑20基、柱穴50基、焼土２基である。また、溝（W－１）として調査を開始したが、調査の結果、傾斜地と判明した遺構を検出した。

１　住居址

Ｈ－１号住居址（Fig.　６、ＰＬ．２・９）

（**位置**）Ｘ７－Ｙ９Ｇ（**形状**）南側が調査区外のため不明。（**規模**）長軸（1.44）×短軸（1.40）m。確認面までの壁高36cm。（**面積**）（1.03m²）（**覆土**）３層に細分できる。（**竈址**）検出されず。（**遺物**）総数34点の遺物が出土。このうち図示したものは１個体。（**備考**）古墳時代

Ｈ－２号住居址（Fig.　６、ＰＬ．２・９）

（**位置**）X7・8－Y7～9G（**重複**）Ｈ－19，Ｄ－19に切られる。（**形状**）長方形（**規模**）長軸5.40×短軸4.72m。確認面までの壁高32cm。（**面積**）23.73m²（**方位**）Ｎ－４°－Ｅ（**覆土**）As-Ｂの純層。１層に大別でき、６層に細分できる。（**床面**）中央部に焼土と堅緻面を検出。（**竈址**）南東角に検出。（**遺物**）総数105点の遺物が出土。このうち図示したものは１個体。（**備考**）平安時代

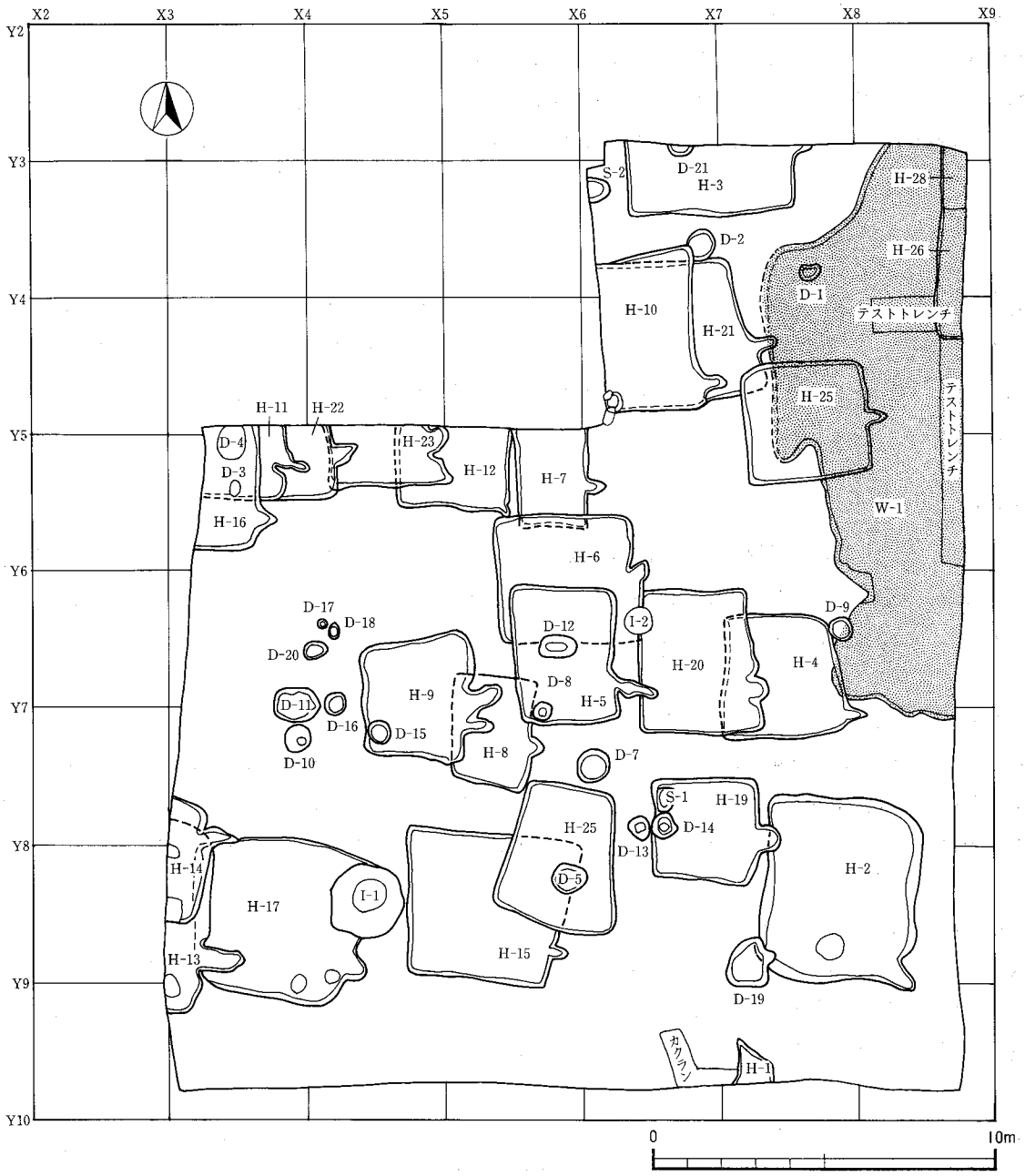


Fig. 5 全 体 図

H－3号住居址（Fig. 6、PL. 3・9）

（**位置**）X6・7－Y2・3G（**重複**）D－21に切られる。（**形状**）北側が調査区外のため不明。（**規模**）長軸5.04×短軸（2.32）m。確認面までの壁高9㎝。（**面積**）（10.08m²）（**方位**）N－87°－E（**覆土**）3層に細分できる。（**竈址**）東壁に検出。調査区で北側を切られる。（**遺物**）総数124点の遺物が出土。このうち図示したものは1個体。（**備考**）古墳時代

H－4号住居址（Fig. 6、PL. 3・9）

（**位置**）X7・8－Y6・7G（**重複**）H－20に切られる。（**形状**）ほぼ正方形（**規模**）長軸3.72×短軸3.64m。確認面までの壁高28㎝。（**面積**）11.86m²（**方位**）N－88°－E（**覆土**）4層に細分できる。（**竈址**）東壁の南東角寄りに検出。（**遺物**）総数65点の遺物が出土。このうち図示したものは2個体。（**備考**）古墳時代

H－5号住居址（Fig. 7、PL. 3・9）
（**位置**）X5・6－Y6・7G（**重複**）H－6、H－8、H－20を切り、D－8、D－12に切られる。（**形状**）長方形（**規模**）長軸4.08×短軸2.76m。確認面までの壁高18cm。（**面積**）10.57m²（**方位**）N－85°－E（**覆土**）2層に細分できる。（**竈址**）東壁の南東角寄りに検出。（**遺物**）総数262点の遺物が出土。このうち図示したものは2個体。（**備考**）平安時代

H－6号住居址（Fig. 7、PL. 3・9）
（**位置**）X5・6－Y5・6G（**重複**）H－7を切り、H－5、H－20、D－12、I－2に切られる。（**形状**）ほぼ正方形（**規模**）長軸4.48×短軸4.28m。確認面までの壁高12cm。（**面積**）17.02m²（**方位**）N－87°－E（**覆土**）2層に大別できる。（**竈址**）東壁中央に検出。（**遺物**）総数72点の遺物が出土。このうち図示したものは1個体。（**備考**）平安時代

H－7号住居址（Fig. 7、PL. 3・9）
（**位置**）X5・6－Y4・5G（**重複**）H－6に切られる。（**形状**）北側が調査区外のため不明。（**規模**）長軸（2.88）×短軸2.12m。確認面までの壁高12cm。（**面積**）（8.58m²）（**方位**）N－90°－E（**覆土**）1層に大別できる。（**竈址**）東壁に検出。（**遺物**）総数59点の遺物が出土。このうち図示したものは1個体。（**備考**）古墳時代

H－8号住居址（Fig. 8、PL. 3・9）
（**位置**）X5－Y6・7G（**重複**）H－5、H－9に切られる。（**形状**）長方形（**規模**）長軸3.20×短軸2.48m。確認面までの壁高22cm。（**面積**）7.30m²（**方位**）N－87°－W（**覆土**）3層に細分できる。（**竈址**）東壁のやや南寄りに検出。（**遺物**）総数68点の遺物が出土。このうち図示したものは1個体。（**備考**）古墳時代

H－9号住居址（Fig. 8、PL. 3・4・9）
（**位置**）X4・5－Y6・7G（**重複**）H－8を切り、D－15に切られる。（**形状**）ほぼ正方形（**規模**）長軸3.88×短軸3.36m。確認面までの壁高34cm。（**面積**）12m²（**方位**）N－90°－E（**覆土**）3層に細分できる。（**竈址**）東壁に2基検出。（**遺物**）総数205点の遺物が出土。このうち図示したものは1個体。（**備考**）平安時代

H－10号住居址（Fig. 8、PL. 4・9・11）
（**位置**）X6・7－Y3・4G（**重複**）H－21を切る。（**形状**）西側が調査区外のため不明。（**規模**）長軸4.84×短軸（3.00）m。確認面までの壁高12cm。（**面積**）（12.88m²）（**方位**）N－85°－E（**覆土**）5層に細分できる。（**竈址**）東壁の南東角付近に検出。（**遺物**）総数201点の遺物が出土。このうち図示したものは2個体。（**備考**）平安時代

H－11号住居址（Fig. 9、PL. 4・9）
（**位置**）X3・4－Y4・5G（**重複**）H－16に切られ、H－22を切る。（**形状**）西側と北側が調査区外のため不明。（**規模**）長軸（2.40）×短軸（2.12）m。確認面までの壁高12cm。（**面積**）（5.54m²）（**方位**）N－90°－E（**覆土**）6層に細分できる。（**竈址**）東壁に検出。（**遺物**）総数89点の遺物が出土。このうち図示したものは2個体。（**備考**）平安時代

H－12号住居址（Fig. 7、PL. 4・9）
（**位置**）X4・5－Y4・5G（**重複**）H－7を切り、H－23に切られる。（**形状**）北側が調査区外のため不明。（**規模**）長軸3.52×短軸（2.28）m。確認面までの壁高16cm。（**面積**）（7.39m²）（**方位**）N－90°－E（**覆土**）3層に細分できる。（**竈址**）南東角に検出。（**遺物**）総数55点の遺物が出土。このうち図示したものは1個体。（**備考**）古墳時代

H－13号住居址（Fig. 9、PL. 5）

（**位置**）X3－Y7～9G（**重複**）H－17を切り、H－14に切られる。（**形状**）西側が調査区外のため不明。（**規模**）長軸5.60×短軸（1.52）m。確認面までの壁高14cm。（**面積**）（6.32m²）（**方位**）N－82°－W（**覆土**）5層に細分できる。（**竈址**）東壁に検出。（**遺物**）総数67点の遺物が出土。（**備考**）平安時代

H－14号住居址（Fig. 9、PL. 5・9）

（**位置**）X3－Y7・8G（**重複**）H－13、H－17を切る。（**形状**）西側が調査区外のため不明。（**規模**）長軸3.68×短軸（1.24）m。確認面までの壁高19cm。（**面積**）（4.02m²）（**方位**）N－83°－W（**覆土**）8層に細分できる。2層はAs-Bの純層。（**竈址**）東壁の北東角寄りに検出。（**遺物**）総数87点の遺物が出土。このうち図示したものは1個体。（**備考**）平安時代

H－15号住居址（Fig. 10、PL. 5・9・10）

（**位置**）X4・5－Y7～9G（**重複**）H－25に切られる。（**形状**）ほぼ正方形（**規模**）長軸4.56×短軸4.16m。確認面までの壁高10cm。（**面積**）16.92m²（**方位**）N－86°－W（**覆土**）2層に細分できる。（**竈址**）東壁の南東角寄りに検出。（**遺物**）総数28点の遺物が出土。このうち図示したものは2個体。（**備考**）古墳時代

H－16号住居址（Fig. 10、PL. 5）

（**位置**）X3－Y4・5G（**重複**）H－11を切り、D－3、D－4に切られる。（**形状**）北側と西側が調査区外のため不明。（**規模**）長軸（3.64）×短軸（1.68）m。確認面までの壁高35cm。（**面積**）（5.84m²）（**方位**）N－89°－W（**覆土**）2層に細分できる。（**竈址**）東壁の南東角寄りに検出。（**遺物**）総数88点の遺物が出土。（**備考**）平安時代

H－17号住居址（Fig. 10、PL. 5・10）

（**位置**）X3・4－Y7～9G（**重複**）H－13、H－14、I－1に切られる。（**形状**）ほぼ正方形（**規模**）長軸4.96×短軸4.80m。確認面までの壁高32cm。（**面積**）20.89m²（**方位**）N－71°－W（**覆土**）3層に細分できる。（**竈址**）東壁の南東角寄りに検出。（**遺物**）総数436点の遺物が出土。このうち図示したものは2個体。（**備考**）平安時代

H－18号住居址（欠番）

H－19号住居址（Fig. 11、PL. 5・10）

（**位置**）X6・7－Y7・8G（**重複**）H－2を切り、D－14、S－1に切られる。（**形状**）ほぼ正方形（**規模**）長軸3.20×短軸3.08m。確認面までの壁高15cm。（**面積**）9.43m²（**方位**）N－87°－W（**覆土**）2層に細分できる。（**竈址**）東壁中央やや南寄りに検出。（**遺物**）総数79点の遺物が出土。このうち図示したものは2個体。（**備考**）平安時代

H－20号住居址（Fig. 11、PL. 5・6・10）

（**位置**）X6・7－Y6・7G（**重複**）H－4を切り、H－5、I－2に切られる。（**形状**）長方形（**規模**）長軸4.20×短軸3.72m。確認面までの壁高16cm。（**面積**）14.01m²（**方位**）N－87°－E（**覆土**）4層に細分できる。（**竈址**）東壁の南東角寄りに検出。（**遺物**）総数198点の遺物が出土。このうち図示したものは4個体。（**備考**）平安時代

H－21号住居址（Fig. 11、PL. 6・10）

（**位置**）X6・7－Y3・4G（**重複**）H－27を切り、H－10に切られる。（**形状**）西側が調査区外のため不明。（**規模**）長軸(4.84)×短軸4.72m。確認面までの壁高16cm。（**面積**）（18.93m²）（**方位**）N－78°－E（**覆土**）5層に細分できる。（**竈址**）東壁の南東角寄りに検出。（**遺物**）総数389点の遺物が出土。このうち図示したものは2個体。（**備考**）平安時代

H－22号住居址（Fig. 9、PL. 6）
（**位置**）X3・4－Y4・5G（**重複**）H－23を切り、H－11に切られる。（**形状**）北側と西側が調査区外のため不明。（**規模**）長軸（4.08）×短軸（2.48）m。確認面までの壁高21cm。（**面積**）（8.25m²）（**方位**）N－83°－E（**覆土**）2層に細分できる。（**竈址**）東壁に検出。（**遺物**）H－11に含む。（**備考**）平安時代

H－23号住居址（Fig. 12、PL. 6・10・11）
（**位置**）X4－Y4・5G（**重複**）H－12を切り、H－22に切られる。（**形状**）北側が調査区外のため不明。（**規模**）長軸3.40×短軸(1.80)m。確認面までの壁高34cm。（**面積**）（5.15m²）（**方位**）N－89°－E（**覆土**）5層に細分できる。（**竈址**）東壁に検出。甕2個と石を袖に使用。（**遺物**）総数282点の遺物が出土。このうち図示したものは5個体。（**備考**）古墳時代

H－24号住居址（欠番）

H－25号住居址（Fig. 10、PL. 7・11）
（**位置**）X5・6－Y7・8G（**重複**）H－15に切られる。（**形状**）ほぼ長方形（**規模**）長軸4.28×短軸3.52m。確認面までの壁高9cm。（**面積**）12.95m²（方位）N－10°－E（**遺物**）総数120点の遺物が出土。このうち図示したものは3個体。（**備考**）古墳時代

H－26号住居址（Fig. 12、PL. 7・11）
（**位置**）X8－Y3・4G（**重複**）H－28に切られる。（**形状**）東側が調査区外のため不明。（**規模**）長軸（3.40）×短軸（0.84）m。確認面までの壁高52cm。（**面積**）（2.17m²）（**方位**）N－3°－E（**覆土**）2層に細分できる。（**遺物**）総数93点の遺物が出土。このうち図示したものは1個体。（**備考**）古墳時代

H－27号住居址（Fig. 12、PL. 7・11）
（**位置**）X7・8－Y4・5G（**重複**）H－21に切られる。（**形状**）正方形（規模）長軸3.68×短軸3.56m。確認面までの壁高22cm。（**面積**）12.17m²（**方位**）N－84°－E（**覆土**）2層に大別できる。（**竈址**）東壁中央に検出。（**遺物**）総数388点の遺物が出土。このうち図示したものは1個体。（**備考**）平安時代

H－28号住居址（Fig. 12、PL. 7）
（**位置**）X8－Y2・3G（**重複**）H－26を切る。（**形状**）北側と東側が調査区外のため不明。（**規模**）長軸（1.76）×短軸（0.80）m。確認面までの壁高42cm。（**面積**）（1.29m²）（**覆土**）2層に大別できる。（**備考**）平安時代

2 井 戸

I－1号井戸（Fig. 12、PL. 7）
（**位置**）X4－Y8G（**重複**）H－17を切る。（**形状**）円形（**規模**）長軸2.45×短軸2.10m。確認面までの壁高77cm。（**遺物**）総数2点の遺物が出土。

I－2号井戸（Fig. 5）
（**位置**）X6・7－Y6・7G（**重複**）H－6、H－20を切る。（**形状**）円形（**規模**）長軸1.08×短軸0.88m。確認面までの壁高65cm。（**遺物**）人骨の破片が出土。

3 土 坑 （Fig. 5） Tab. 1参照。20基を確認する。

4 柱穴 (Fig. 6、PL. 2) Tab. 2参照。50基を確認する。

5 焼土 (Fig. 5)

プラン確認時には、住居址の竈と思われたが、住居址の竈と確認できなかったので、焼土とした。

S－1号焼土（位置） X6－Y7G（**重複**）H－19を切る。（**形状**）不整形（**規模**）長軸72cm×短軸68cm。確認面までの壁高17cm。

S－2号焼土（位置） X6－Y3G（**形状**）楕円形と思われるが、半分が調査区域外のため不明。（**規模**）長軸60cm×短軸58cm。確認面までの壁高23cm。

6 グリッド出土の遺物

表土掘削時に古墳時代や平安時代の土器片が出土。プラン確認が難しいために、グリッドや覆土として取り上げた遺物が多かった。住居址やその他の遺構と接合する遺物がある。住居址として確認することができなかった場所からも完形品の杯等が出土している。

As-B混じりの土であったため、W－1号溝として調査を実施したが、西から東へ傾斜する土地と判明した遺構（X7・8－Y2～7G）からは、394点の遺物が出土している。

Tab. 1 土坑観察表

遺構名	位置	形状	長径	短径	深さ	備考
D—1	X7—Y3G	楕円形	65 cm	47 cm	30 cm	
D—2	X6・7—Y3G	円形	90	88	13	
D—3	X3—Y5G	楕円形	50	30	30	
D—4	X3—Y4・5G	楕円形	85	70	14	
D—5	X5・6—Y8G	楕円形	102	82	22	
D—6	X6—Y6G	楕円形	108	88	65	I—2に変更
D—7	X5・6—Y7G	円形	85	80	26	
D—8	X5—Y6・7G	円形	115	105	47	底部に石。柱穴か
D—9	X7—Y6G	円形	70	65	17	カワラケ高台椀出土
D—10	X3・4—Y7G	円形	80	72	61	
D—11	X3・4—Y6・7G	楕円形	84	98	30	
D—12	X5—Y6G	楕円形	113	57	25	
D—13	X6—Y7G	円形	70	65	46	柱穴か
D—14	X6—Y7G	円形	70	65	61	底部に石。柱穴か
D—15	X4—Y7G	円形	65	60	40	
D—16	X4—Y6・7G	円形	53	55	41	
D—17	X4—Y6G	円形	28	25	—	
D—18	X4—Y6G	楕円形	50	27	—	
D—19	X7—Y8G	不整形	160	110	—	
D—20	X4—Y6G	楕円形	70	50	—	
D—21	X6—Y2G	半円形	65	(28)	27	

Tab. 2　　柱　穴　観　察　表

遺構名	位　置	形　状	長　径	短　径	深　さ	備　考
P_{1}	X 6—Y 4 G	円　形	29 cm	29 cm	32 cm	
P_{2}	X 6—Y 4 G	円　形	20	20	17	
P_{3}	X 7—Y 4 G	円　形	22	20	30	
P_{4}	X 6—Y 5 G	円　形	30	28	35	
P_{5}	X 6—Y 5 G	円　形	25	25	25	
P_{6}	X 6—Y 4・5 G	円　形	28	25	30	
P_{7}	X 5—Y 4・5 G	円　形	25	21	29	
P_{8}	X 5—Y 5 G	円　形	24	20	34	
P_{9}	X 5—Y 5 G	円　形	22	22	34	
P_{10}	X 5—Y 5 G	円　形	26	23	34	
P_{11}	X 5—Y 5 G	円　形	25	24	23	
P_{12}	X 5—Y 5 G	円　形	24	24	28	
P_{13}	X 6—Y 5 G	円　形	30	25	36	
P_{14}	X 6—Y 5 G	円　形	25	22	31	
P_{15}	X 6—Y 5 G	円　形	25	25	25	
P_{16}	X 6—Y 6 G	円　形	25	20	50	
P_{17}	X 6—Y 7 G	円　形	25	23	36	
P_{18}	X 6—Y 6 G	円　形	27	26	23	
P_{19}	X 6—Y 6 G	円　形	25	24	31	
P_{20}	X 6—Y 6 G	円　形	25	20	37	
P_{21}	X 5—Y 6 G	円　形	26	24	31	
P_{22}	X 5—Y 6 G	円　形	23	21	16	
P_{23}	X 5—Y 6 G	円　形	27	24	16	
P_{24}	X 5・6—Y 6 G	円　形	25	22	32	
P_{25}	X 5・6—Y 7 G	円　形	33	30	20	
P_{26}	X 5—Y 7 G	円　形	25	23	30	
P_{27}	X 5—Y 7 G	円　形	26	22	21	
P_{28}	X 5—Y 7 G	円　形	26	25	27	
P_{29}	X 5—Y 6 G	円　形	24	24	24	
P_{30}	X 5—Y 6 G	円　形	24	24	19	
P_{31}	欠　番	—	—	—	—	住居址
P_{32}	X 4—Y 5 G	円　形	20	19	28	
P_{33}	X 4—Y 4・5 G	円　形	24	23	25	
P_{34}	X 3—Y 5 G	円　形	23	23	27	
P_{35}	X 3—Y 5 G	円　形	22	18	18	
P_{36}	X 3—Y 5 G	円　形	14	12	16	
P_{37}	X 8—Y 4・5 G	円　形	20	20	24	
P_{38}	X 8—Y 4 G	円　形	24	24	19	
P_{39}	X 8—Y 5 G	円　形	21	20	15	
P_{40}	X 8—Y 5 G	円　形	25	25	22	
P_{41}	X 8—Y 5 G	円　形	24	20	15	
P_{42}	X 8—Y 5 G	円　形	20	18	13	
P_{43}	X 8—Y 6 G	円　形	25	19	21	
P_{44}	X 7・8—Y 6 G	円　形	23	21	30	
P_{45}	X 8—Y 6 G	円　形	25	19	18	
P_{46}	X 7—Y 6 G	円　形	22	20	30	
P_{47}	X 6—Y 6 G	円　形	20	20	25	
P_{48}	X 6—Y 6 G	円　形	21	20	18	
P_{49}	X 6—Y 6 G	円　形	25	23	30	
P_{50}	X 6—Y 6 G	円　形	26	24	16	
P_{51}	X 6—Y 4 G	円　形	26	20	40	

VI まとめ

1．住居址

ほとんどの住居址が切り合いをもっており、竈の焼土範囲から住居の壁や床面を探す状態であった。古墳時代と平安時代の切り合いもあり、土器の混入も多かった。時代決定の要素としては、竈の形状が大きな決め手となった。古墳時代の住居址10軒、平安住居の住居址16軒が検出された。

H－2号住居址はAs-Bの火山灰の純層に覆われていた。竈の焼土範囲が南東コーナー部に検出されたためH－2号住居址の竈としてとらえた。住居の床面の中央部分に焼土範囲や、その北側に石が検出された。小鍛冶遺構の可能性も考えられるとの指摘がある。

H－9号住居址は竈が2基並んで東壁に検出された。同一の住居として調査を実施したが、精査の結果、北側の竈の北には周溝が検出されたので、2軒の住居の可能性もある。切り合いがあり、住居の壁がはっきりせず、また遺物や覆土から判断できなかったのは残念である。

H－23号住居址の竈には、長胴甕が押し潰された状態で2個検出された。竈の袖の補強材として使用されたものと考えられるが、住居の全体像は調査区域外のためつかみきれなかった。

H－19号住居址の甕の破片の表面に線刻による模様が描かれている遺物が1点出土した。破片であるため、何を描いてあるのか判別できない。線刻は、細いヘラによるものである。

H－9・20・27号住居址は竈の袖に瓦を補強材として使用している。木津博明氏によると、これらの瓦の所産時期は、8世紀終末から9世紀代と推定され、少なくとも国府内の瓦葺き建物が9世紀代に存在したことが指摘できる。これらと同様の瓦は、元総社明神遺跡や、大屋敷遺跡の住居址の竈にも使用されている。

2．柱　穴

1108年降下の浅間山の火山灰（As-B）を含む柱穴が50個検出された。X3～8－Y4～7Gに集中している。直径は12cmから33cmでほぼ円形を呈している。深さは13cmから50cmである。底面のレベルでとらえると、統一性は認められないが、掘立柱建物の柱穴であると考えられる。P_{37}からP_{46}までは傾斜地と考えられるAs-B混じり土を除去した面から検出された。検出された数が多い。全体像をとらえるのは難しいが、ちなみに、P_{37}を基準にすると、東西方向では、N－86°－Wで、P_{38}・P_3・P_2が直線上に並ぶ。同様に東西方向同じ角度で直線上に並ぶのは、P_{39}・P_{49}・P_4・P_5・P_8・P_{10}・P_{33}・P_{34}。同様に、P_{41}・P_{42}・P_{15}・P_{12}・P_{11}・P_{35}、P_{43}・P_{44}・P_{49}・P_{18}・P_{19}・P_{21}、P_{45}・P_{44}・P_{50}・P_{22}・P_{30}がそれぞれ直線上に並ぶ。南北方向では、P_{37}を基準にすると、N－5°－EでP_{39}・P_{41}・P_{43}・P_{45}が並ぶ。同様に同じ角度で、P_{38}・P_{40}・P_{42}・P_{44}・P_{46}、P_4・P_{14}・P_{15}・P_{49}・P_{50}、P_7・P_8・P_{12}・P_{21}・P_{22}、P_{11}・P_{30}・P_{29}が直線上に並ぶ。間隔は1間（1.8m）の倍数にあてはまらない部分があるが、建物の柱穴の並び方を考えるうえで、貴重な柱穴であるといえる。

3．土　坑

調査途中では土坑として扱ったが、柱穴となるものがあった。本遺跡では、便宜上As-Bを含む物を柱穴とし、それ以外の物を土坑として扱った。ほとんどの土坑から遺物は検出されなかったので、時期決定は困難であった。

その中で、D－9号は、カワラケ28個、高台椀11個がまとまって出土した。D－9は直径70cm、深さ17cmを測る。出土遺物から、10世紀の所産と考えられる。カワラケは直径9.2cmから10.6cmの範囲、器高2.3cmから3.4cmの範囲にある。口縁の形態から分類すると、外傾のものと、直線的なもの2種類に分類できる。外傾のものは22個、直線的なものは6個である。

高台椀は口縁の直径13.5cmから14.9cm，器高5.3cmから8.2cm、底径7.0cmから8.6cmの範囲で作られている。椀部は外傾のもの6個、直線的なもの5個の2種類に分類できる。

また、D－8号とD－7号、D－13号または、D－14号は直線的に並び、間隔は土坑の中心から約2.2mである。

方向は、N－42°－Wまたは、N－49°－Wである。底部に石を置いてある土坑はD－14とD－8である。これらの土坑は、建物の柱穴としてとらえられる。

4．井　戸

井戸は2基検出された。I－1号井戸は、H－17号住居址を切っていることから、H－17号住居址より新しいことが分かるが、出土遺物からは時代決定ができなかった。確認面から約30cm下がった所に、長径163×短径120cmを測る中段があり、井戸の周りに石を使用していることが判明した。ていねいに加工した石ではないが、井戸の掘り始めの部分に5個の石が地山に差し込むように使用されていた。調査終了時に重機により、底面まで調査してみたが、遺物はなく、約3.4mの深さの井戸となった。重機で掘り下げた井戸の覆土は8層に細分でき、ほぼ水平に総社砂層土が10～50cmの厚みで堆積していた。

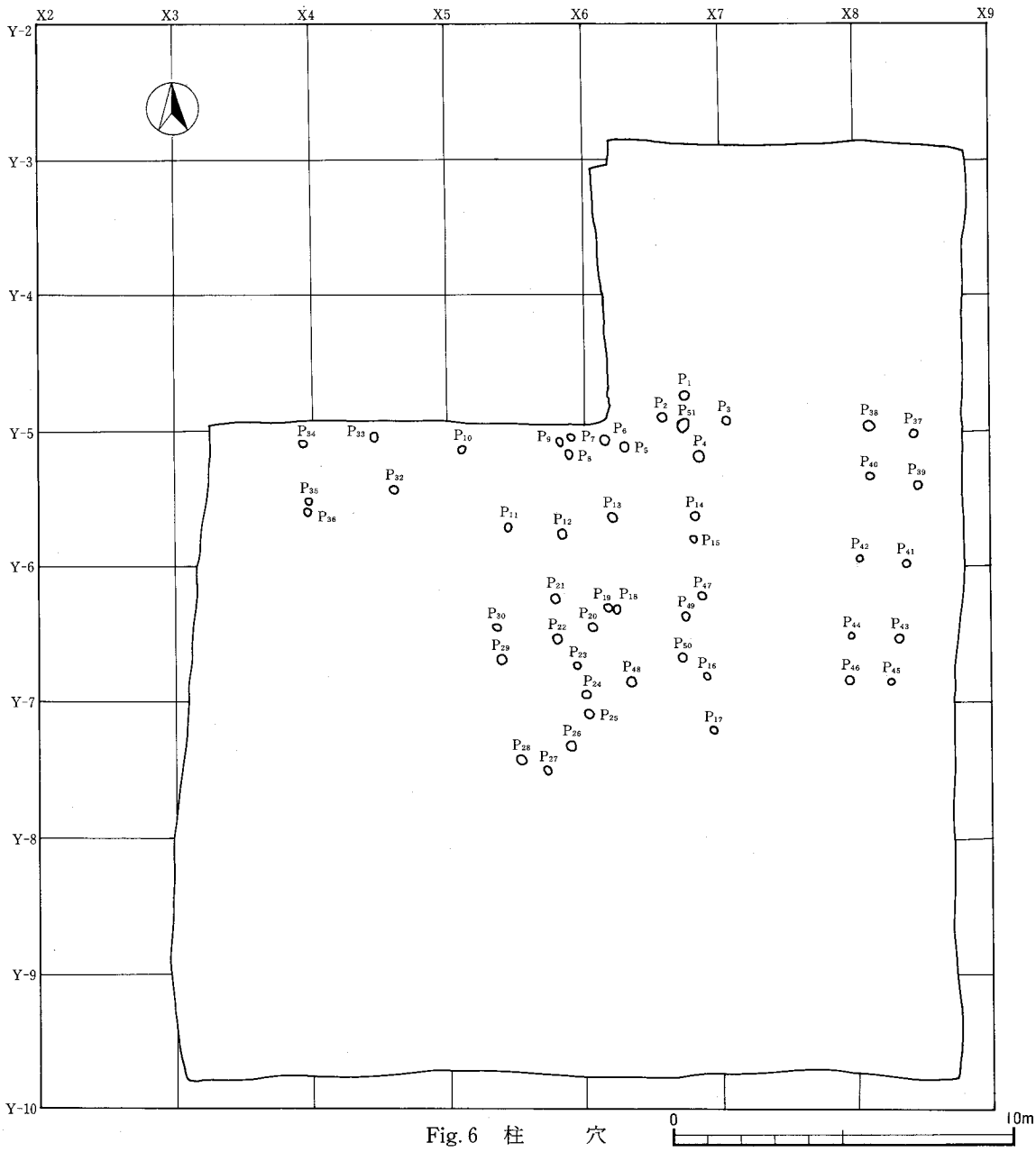


Fig. 6　柱　　穴

Ⅰ－2号井戸は、H－6・20号住居址を切る。上部はAs－B混じりの覆土である。骨片1点が出土した。底部までの調査はできなかったが、調査で確認した底部からピンポールで深さを調べたところ、土坑より深いため、井戸としたが、土坑の可能性も考えられる。

屋敷Ⅱ遺跡は、覆土中にAs－Bが認められたH－2号住居址と柱穴列や、カワラケと高台椀が出土したD－9号土坑の検出など、特徴的な遺構や遺物を検出した遺跡である。周辺遺跡の調査結果を補充し、新たな資料を示し、国府推定域や、蒼海城の縄張り等の解明に貴重な資料を示した遺跡といえる。

Tab. 3　　石　器　観　察　表

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石　材	備　考
1	X4—Y6G	臼　玉	1.0	1.4	0.4	2.1	滑　石	一部欠損
2	X4—Y6G	臼　玉	1.3	1.3	1.0	2.4	滑　石	一部欠損
3	H—3	臼　玉	1.3	1.3	0.8	1.7	滑　石	調査区北壁よりのほぼ中央部から出土
4	H—12	臼　玉	1.4	1.3	0.8	2.1	滑　石	住居のほぼ中央部床面から出土
5	X7—Y3G	臼　玉	1.9	1.6	0.9	3.9	滑　石	H—3の外側の南から出土
6	H—21	編物石	12.2	7.1	2.9	335	粗粒輝石安山岩	6～9の編物石は井桁のように重なって出土。住居の南西隅付近の床面から出土。
7	H—21	編物石	12.3	6.8	3.5	495	粗粒輝石安山岩	
8	H—21	編物石	13.1	7.6	3.7	495	粗粒輝石安山岩	
9	H—21	編物石	13.4	8.2	3.6	530	粗粒輝石安山岩	
10	H—24	敲　石	14.5	6.0	5.1	745	安　山　岩	側面の一部に剝離痕
11	X4—Y8G	敲　石	14.1	6.4	3.9	495	頁　岩	一部欠損
12	H—9	円　礫	12.8	10.8	4.4	900	花　崗　岩	下部は使用痕によりはがれやすい
13	H—21	凹　石	8.0	7.1	3.7	290	粗粒輝石安山岩	上面に長径4.0×短径3.7×深さ0.5cmのくぼみ
14	H—19	砥　石	12.7	4.2	2.5	150	砥　沢　石	3面使用
15	H—10	凹　石	21.4	20.4	13.2	5700	粗粒輝石安山岩	南壁付近の床面から出土

注）表の記載で、大きさと重さについての単位はcm、gである。

参考文献

㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団（1980）『浜町屋敷内遺跡C地点』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団（1987）『屋敷遺跡』

前橋市教育委員会（1983・1984）『元総社明神遺跡Ⅰ・Ⅱ』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団（1986～1994）『元総社明神遺跡Ⅲ・Ⅳ～Ⅻ』

前橋市埋蔵文化財発掘調査団（1993～1995）『大屋敷遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』

Tab. 4

土 器 観 察 表

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調 (4)残存	器形・製作技法の特徴	登録	備考
1	H—1	甕	(17.8)	[19.0]	①細粒②良好③にぶい黄橙色④底部欠損	「く」の字状口縁。篦ナデ。	フク土	
2	H—2	台付甕	—	[5.1]	①細粒②良好③明褐色④台部	底部篦ナデ後ナデ。台部横ナデ。底内部黒色。	竈フク土	
3	H—3	須恵杯	(13.6)	(3.2)	①細粒②良好③灰色④底部2/3	轆轤。底部右回転篦削り痕。	フク土	
4	H—4	杯	11.4	4.1	①細粒②良好③橙色④完形	やや外傾する口縁。底部篦削り。	フク土	
5	H—4	杯	(17.2)	5.9	①細粒②良好③明赤褐色④3/5	外傾する口縁。底部篦削り。	フク土	
6	H—5	須恵羽釜	(26.0)	[19.1]	①細・粗粒②良好③赤褐色④底部欠損	口縁・胴部篦削り。	フク土	X5Y8G接合
7	H—5	甑	17.0	13.8	①粗粒②良好③にぶい黄橙色④2/3	外傾する口縁。胴部篦削り。	フク土	
8	H—6	杯	(12.4)	[3.3]	①細粒②良好③褐灰色④1/4	直立する短い口縁。篦削り。	フク土	
9	H—7	杯	(9.4)	3.6	①細粒②良好③にぶい橙色④1/3	わずかに外反する口縁。篦削り。内面に放射状篦研磨。	フク土	
10	H—8	杯	11.2	3.1	①細粒②良好③橙色④1/2	直立する口縁。底部篦削り。	フク土	
11	H—9	須恵Ⅲ	(9.6)	2.4	①細粒②良好③灰色④2/5	内湾気味の体部。底部回転篦削り痕。	フク土	
12	H—10	須恵杯	10.8	2.5	①細粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	外傾する体部。底部左回転糸切り痕。	フク土	
13	H—10	須恵底部	—	[2.0]	①細粒②良好③にぶい黄橙色④台部	紡錘車に転用。焼成後穿孔。	フク土	
14	H—11	杯	9.6	3.2	①細粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	短く内湾する口縁。底部篦削り。	1	
15	H—11	杯	9.9	3.3	①細粒②良好③にぶい橙色④3/4	やや内湾する口縁。底部篦削り。	フク土	
16	H—12	杯	11.0	4.1	①細粒②良好③橙色④完形	やや外傾する口縁。底部篦削り。器形に歪みあり。	3	
17	H—14	須恵杯	(8.2)	2.9	①細粒②良好③にぶい橙色④1/2	内湾気味の体部。底部左回転糸切り痕。	フク土	
18	H—15	須恵蓋	(8.0)	—	①細粒②良好③灰色④破片	口縁断面三角形の返り。轆轤。	フク土	
19	H—15	杯	(11.5)	3.1	①細粒②良好③明赤褐色④1/3	内湾する口縁。底部篦削り。	フク土	
20	H—17	甕	—	[20.0]	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/4	外面肩部横、胴部縦と斜め方向の磨き。内面ナデ。	14	
21	H—17	須恵杯	(14.0)	4.6	①細粒②良好③にぶい橙色④2/5	外傾する体部。底部右回転糸切り痕。	フク土	
22	H—19	甕	(19.0)	[11.5]	①細粒②良好③橙色④破片	「く」の字状口縁。篦削り。	フク土	
23	H—19	甕	—	—	①細粒②良好③明赤褐色④破片	胴部にヘラによる線刻文様あり。	フク土	
24	H—20	須恵Ⅲ	8.6	1.5	①細粒②良好③橙色④ほぼ完形	口縁外反。轆轤。底部右回転篦削り痕。	フク土	
25	H—20	椀	(13.0)	5.6	①細粒②良好③にぶい褐色④口縁1/2欠損	内外面とも篦研磨。底部ナデ。内面黒色処理。	4	
26	H—20	杯	(14.9)	[3.8]	①細粒②良好③にぶい橙色④1/4	外傾する口縁。内外面とも横ナデ。	5	
27	H—20	甕	(22.7)	[34.5]	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/4	内面ナデ。外面篦削り。	4ほか	
28	H—21	甕	(23.6)	[11.0]	①粗粒②良好③明赤褐色④口縁部	内外面ともナデ。	フク土	
29	H—21	杯	(10.8)	3.6	①細粒②良好③橙色④1/3	やや外傾する口縁。底部篦削り。	フク土	
30	H—23	台付甕	13.2	17.0	①粗粒②良好③にぶい赤褐色④3/4	外傾する口縁。口縁斜め方向の磨き。胴部篦磨き、台部ナデ。	1	
31	H—23	甕	22.6	40.9	①粗粒②良好③橙色④4/5	外傾する口縁。胴部篦削り。竈の袖に利用。	14ほか	
32	H—23	甕	(25.0)	43.2	①粗粒②良好③橙色④3/4	外傾する口縁。胴部篦削り。竈の袖に利用。	10ほか	
33	H—23	須恵杯	12.2	4.9	①細粒②良好③灰色④完形	内湾気味の口縁部。底部右回転篦削り痕。	2	
34	H—23	杯	11.8	3.5	①細粒②良好③橙色④ほぼ完形	外傾する口縁。内外面ともナデ。	フク土	
35	H—25	杯	11.4	3.8	①細粒②良好③橙色④ほぼ完形	外湾する口縁。底部篦削り。	3	
36	H—25	杯	10.7	3.3	①細粒②良好③橙色④ほぼ完形	やや外傾する短い口縁。底部篦削り。	2	
37	H—25	杯	11.0	3.5	①細粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	やや外傾する短い口縁。底部篦削り。	4	
38	H—26	灰釉Ⅲ	(13.0)	2.7	①細粒②良好③灰白色④1/2	丸い高台部。底部左回転糸切り痕。	フク土	
39	H—27	羽釜	21.0	25.7	①細粒②良好③にぶい赤褐色④2/3	内傾する口縁。横ナデ、篦削り。やや上向きの鍔。	3ほか	
40	X6-Y8G	甑	15.0	13.4	①細粒②良好③にぶい黄橙色④3/4	口縁横ナデ。底部篦削り。単孔（径1.7cm）。	フク土	
41	X4-Y8G	卓	(11.0)	2.4	①細粒②良好③にぶい橙色④1/3	上面中央部に盛り上がり。縁に向かって緩やかに上向きの傾斜。底部糸切り痕。	フク土	
42	X5-Y8G	杯	11.0	3.6	①細粒②良好③橙色④完形	やや外傾する口縁。底部篦削り。	2	
43	X5-Y9G	須恵Ⅲ	9.4	1.8	①細粒②良好③明赤褐色④ほぼ完形	外傾する体部。底部左回転糸切り痕。	フク土	
44	X7-Y9G上	須恵Ⅲ	8.6	2.0	①細粒②良好③灰白色④完形	口縁外反。底部右回転糸切り痕。口縁部1ヶ所にスス付着。45の上に重なって出土。	フク土	
45	X7-Y9G下	須恵杯	13.3	3.8	①細粒②良好③橙色④2/3	外反する体部。底部右回転糸切り痕。44の下から出土。	フク土	
46	X8-Y2G	須恵杯	10.6	3.2	①細粒②良好③にぶい黄褐色④完形	外湾する体部上半。底部右回転糸切り痕。	フク土	
47	D—8	台付甕	—	[2.7]	①細粒②良好③暗灰黄色④底部	内外面とも縦位刷毛目。	フク土	
48	フク土	須恵Ⅲ	8.7	1.6	①細粒②良好③灰白色④ほぼ完形	口縁外反。底部右回転糸切り痕。	フク土	
49	フク土	須恵杯	(9.8)	2.2	①細粒②良好③にぶい黄橙色④2/3	外傾する口縁。底部直線的な糸切り痕。	フク土	
50	D—9	須恵杯	9.8	2.8	①細粒②良好③にぶい黄橙色④2/3	外傾する口縁。轆轤。底部糸切り痕。	4	

番号	出土位置	器形	大きさ 口径	大きさ 器高	(1)胎土 (2)焼成 (3)色調 (4)残存	器形・製作技法の特徴	登録	備考
51	D—9	須恵杯	9.8	2.3	①細粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	外傾する口縁。轆轤。底部糸切り痕。	24	
52	D—9	須恵杯	(9.2)	3.0	①細粒②良好③にぶい黄橙色④3/4	外傾する口縁。轆轤。底部糸切り痕。	13	
53	D—9	須恵杯	10.1	2.4	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/2	外傾する口縁。轆轤。底部糸切り痕。	27	
54	D—9	須恵杯	[9.2]	2.5	①細粒②良好③にぶい橙色④3/4	外傾する口縁。轆轤。底部糸切り痕。	14	
55	D—9	須恵杯	9.8	3.1	①細粒②良好③浅黄橙色④3/4	外傾する口縁。轆轤。底部糸切り痕。	37	
56	D—9	須恵杯	9.9	2.6	①細粒②良好③にぶい橙色④完形	外傾する口縁。轆轤。底部糸切り痕。	23	
57	D—9	須恵杯	(10.2)	2.7	①細粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	外傾する口縁。轆轤。底部糸切り痕。	26	
58	D—9	須恵杯	(10.3)	3.0	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/2	外傾する口縁。轆轤。底部糸切り痕。	32	
59	D—9	須恵杯	(9.2)	2.8	①細粒②良好③浅黄橙色④1/2	外傾する口縁。轆轤。底部糸切り痕。	28	
60	D—9	須恵杯	9.7	2.8	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/2	外傾する口縁。轆轤。底部糸切り痕。	36	
61	D—9	須恵杯	10.5	3.4	①細粒②良好③にぶい黄橙色④3/4	外傾する口縁。轆轤。底部糸切り痕。	9	
62	D—9	須恵杯	10.0	2.8	①細粒②良好③浅黄橙色④完形	外傾する口縁。轆轤。底部糸切り痕。	7	
63	D—9	須恵杯	10.2	3.0	①細粒②良好③にぶい黄橙色④1/2	外傾する口縁。轆轤。底部糸切り痕。	フク土	
64	D—9	須恵高台椀	(14.7)	5.6	①細粒②良好③にぶい黄橙色④3/4	外湾する体部。底部回転ナデ痕。	5ほか	
65	D—9	須恵高台椀	14.2	5.3	①細粒②良好③灰白色④ほぼ完形	内湾気味の体部。底部回転ナデ痕。	12	
66	D—9	須恵高台椀	14.4	8.2	①細粒②良好③灰白色④高台1/3欠損	内湾気味の体部。底部回転ナデ痕。	38ほか	
67	D—9	須恵高台椀	13.8	6.0	①細粒②良好③灰白色④ほぼ完形	外湾する口縁。底部回転糸切り痕。	10	
68	D—9	須恵高台椀	14.5	6.3	①細粒②良好③にぶい黄橙色④3/4	外湾する口縁。底部回転ナデ痕。	35	
69	D—9	須恵高台椀	14.6	5.8	①細粒②良好③にぶい黄橙色④ほぼ完形	外湾する体部。底部回転ナデ痕。	20ほか	
70	D—9	須恵高台椀	13.8	5.5	①細粒②良好③灰白色④ほぼ完形	外湾する体部。底部回転ナデ痕。	38	

注）表の記載は以下の基準で行った。

①胎土は細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0mm～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とした。

②焼成は、極良、良好、不良の３段階とした。

③色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帖（小山・竹原1976）によった。

④大きさの単位はcmであり、現存値を［ ］、復元値を（ ）で示した。

Tab. 5　瓦観察表

No	出土位置	瓦の種類	厚さ (cm)	胎土 素地	胎土 夾雑物	焼成 焼き上り	焼成 色調	成形技法 粘土版剝取 凹面	成形技法 粘土版剝取 凸面	成形技法 作り	成形技法 桶寄木痕	成形技法 粘土版合せ目	成形技法 布の合せ目	成形技法 叩目	整形技法 轆轤痕	整形技法 凸面	整形技法 布の擦消 凹面	整形技法 布の擦消 凸面	整形技法 側部面取	摘要	Fig
1	H—16	女瓦	2.5	粗	白色鉱物	硬	灰	—	—	—か	—	—	—	—	—	撫	—	—	—	吉井	18
2	H—16	女瓦	1.7	粗	少	並	灰	—	—	—作	○	—	側布	縄密	—	—	—	—	1	秋間	18
3	H—17	女瓦	1.6	並	少	硬	灰白	—	—	—作	○	—	—	縄密	—	—	—	—	—	秋間	18
4	H—17	男瓦	1.5	密	微	締	灰白	—	—	紐作	—	—	—	—	○	縦撫	○	—	—	秋間	18
5	H—20	女瓦	2.2	並	少	硬	黄橙	—	—	桶巻	○	—	—	—	○	—	—	—	3	秋間	18
6	H—20	女瓦	1.9	並	微	並	灰白	○	—	桶か	—	—	—	正格	—	—	—	—	—	秋間	18
7	H—20	女瓦	1.8	並	微	硬	暗灰	—	—	桶巻	○	—	—	—	○	—	—	—	2	秋間	18
8	H—20	男瓦	1.7	密	微	締	灰	○	—	半截	—	Z	—	縄密	○	轆撫	—	—	2	乗・秋	18
9	H—20	女瓦	1.9	密	少	硬	橙	○	—	—か	—	S？	—	縄密	—	縦撫	—	—	2	乗附か	18
10	H—21	男瓦	2.5	並	少	硬	暗灰	—	—	半截	—	Z	—	—	—	縦撫	—	—	3	吉井	19
11	H—27	女瓦	2.2	並	少	並	黄灰	○	—	—か	—	—	—	—	—	縦撫	—	—	3	乗附か	19
12	H—27	女瓦	1.1	並	少	並	灰	—	—	—作	—	—	—	縄密	—	—	—	—	3	秋間	19
13	H—27	宇瓦	2.0	密	少	締	暗灰	○	—	桶か	○	Z	—	—	—	縦撫	—	—	—	秋間	19
14	W—1	玉男	1.7	密	少	締	白灰	—	—	半截	—	—	—	—	○	—	—	—	—	吉井	19
15	W—1	男瓦	1.2	並	少	硬	灰	—	—	半截	—	S	—	—	○	—	—	—	3	乗・秋	19
16	W—1	女瓦	1.7	粗	多	硬	灰	○	—	—作	—	○	—	縄密T	—	—	—	—	—	秋間	19
17	フク土	女瓦	2.3	並	少	並	暗灰	—	—	半截か	—	—	—	—	—	撫	—	—	端1	吉・藤	19
18	X3—Y8G	女瓦	2.5	並	微	締	灰	—	—	—作	?	—	—	縄密	—	—	—	—	2	秋間	19
19	X4—Y8G	男瓦	1.5	並	微	硬	灰	—	—	半截	—	—	—	—	○	—	—	—	端1	秋間	19

※正格＝正格子叩き　—か＝１枚作りか　半截か＝半截作りか　斜格＝斜格子　縄密＝縄目密の叩き　縄T＝縄密「T」字状

端布目＝端部側に布目の圧痕がある　縄単＝縄目叩き

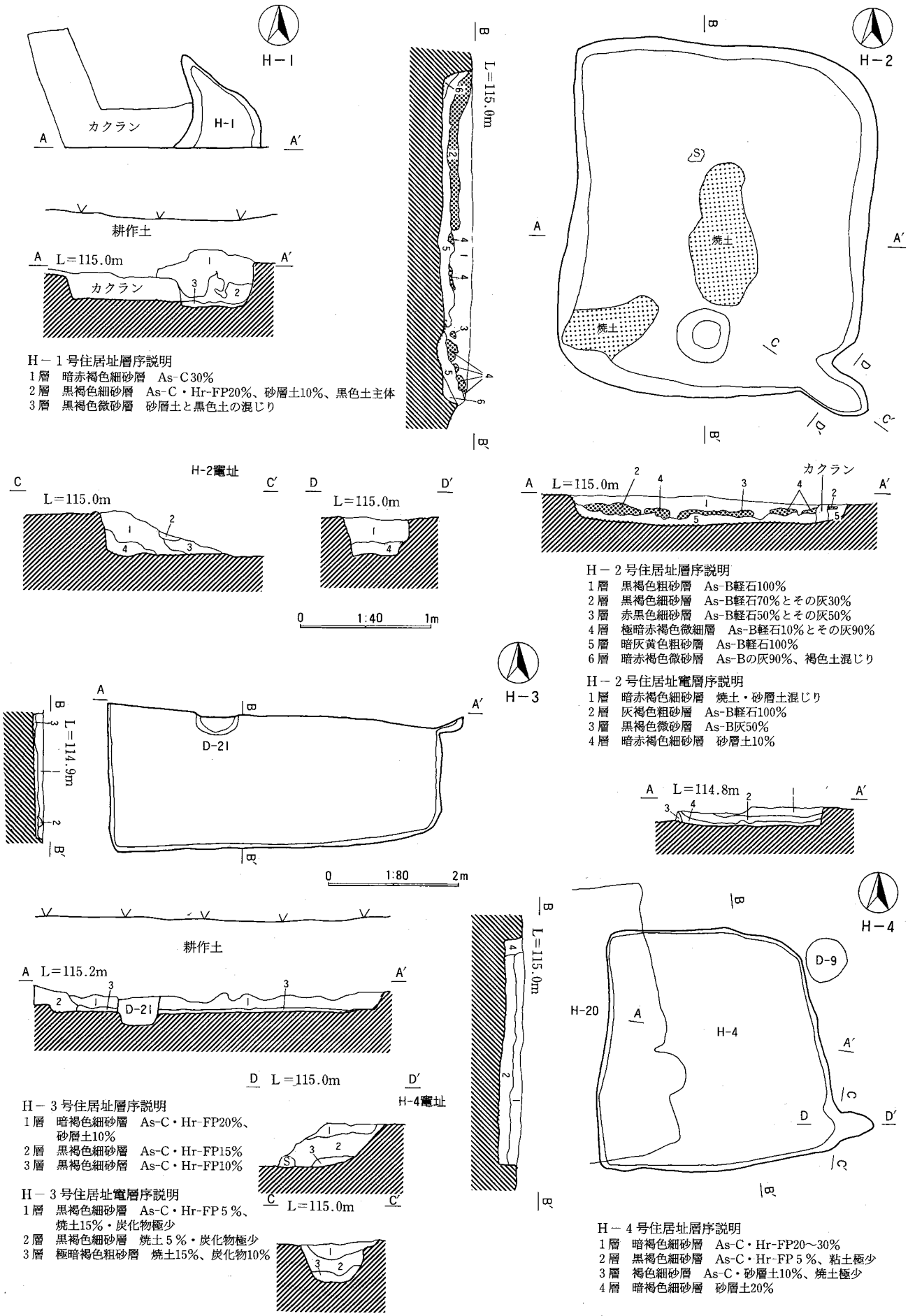


Fig. 7　H-1～4号住居址

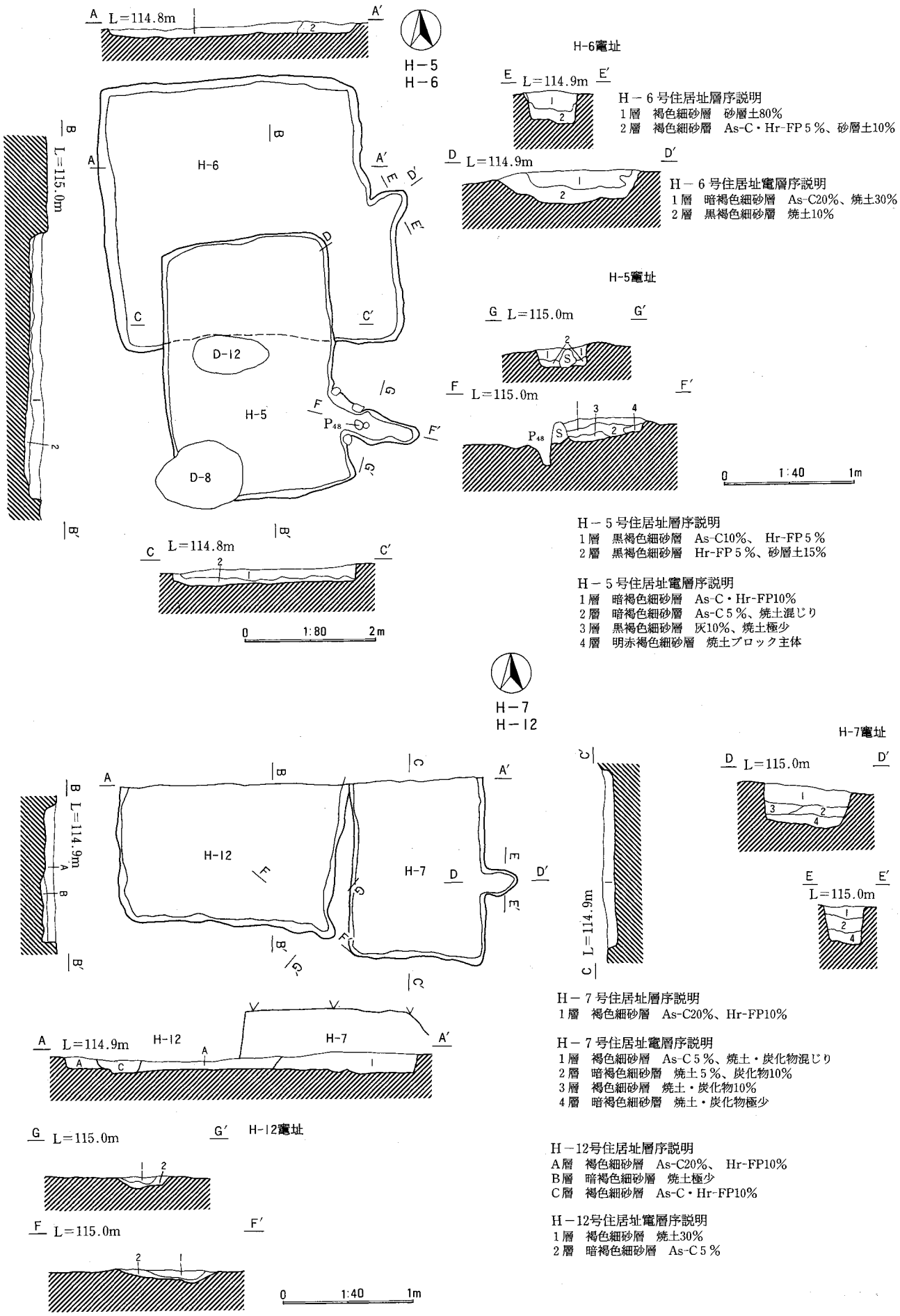
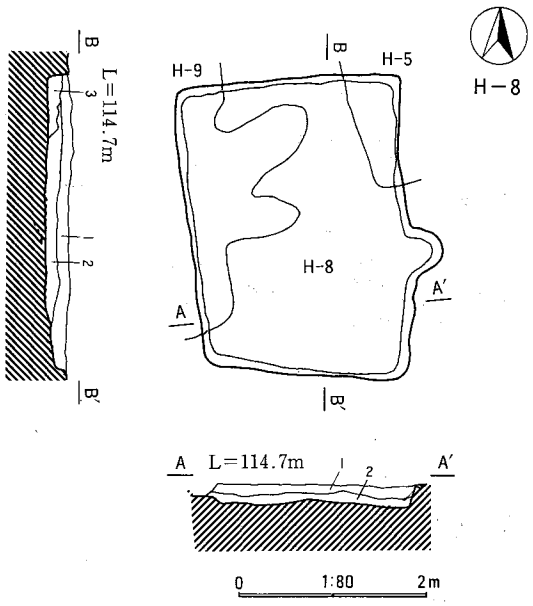
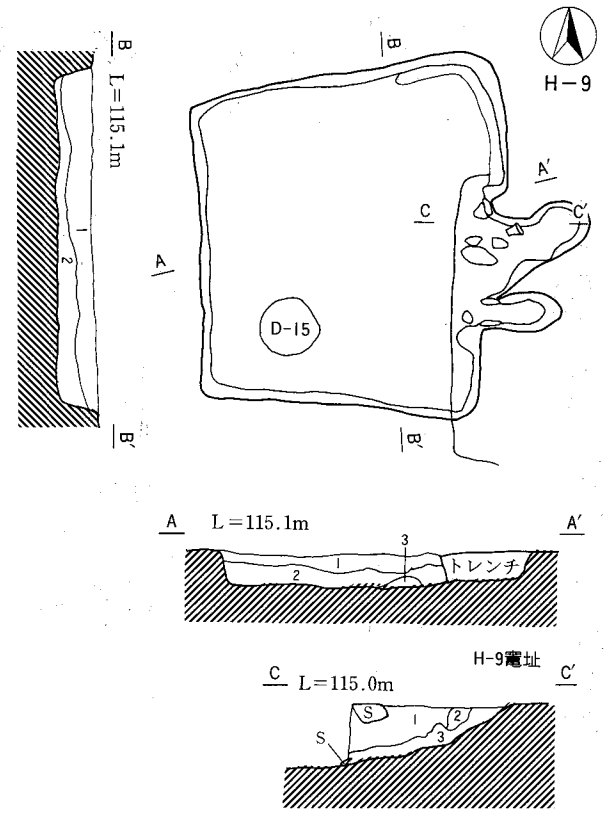


Fig. 8 H-5～7・12号住居址

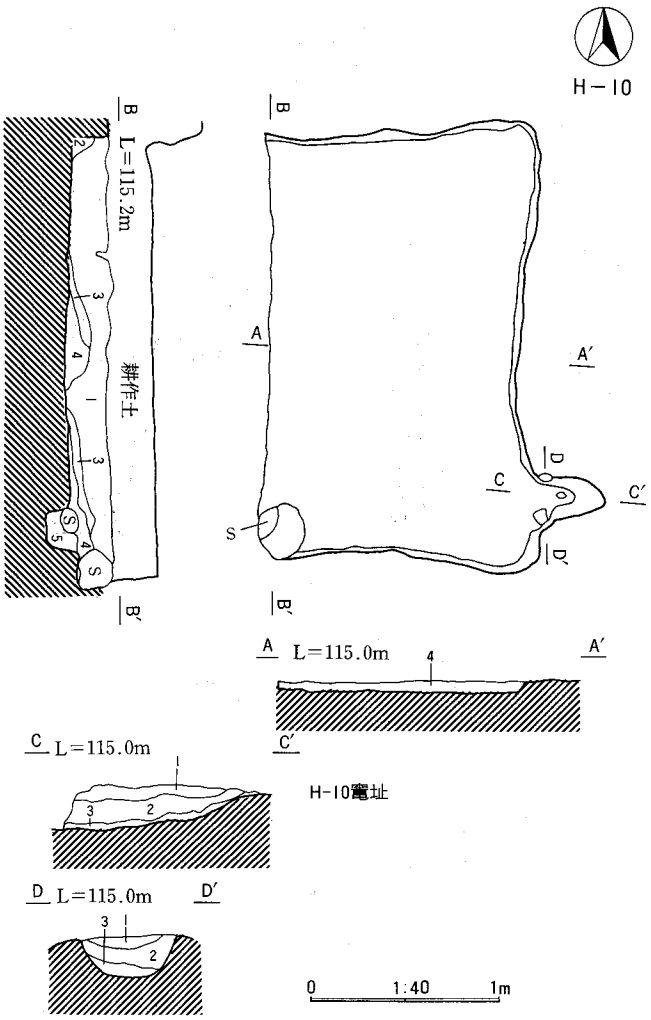


H－8号住居址層序説明
1層　暗褐色細砂層　As-C10%、砂層土10%
2層　暗褐色細砂層　As-C 5 %、砂層土30%
3層　褐色細砂層　砂層土40%



H－9号住居址層序説明
1層　黒褐色粗砂層　As-C・Hr-FP20%、焼土・炭化物極少
2層　暗赤褐色細砂層　As-C・Hr-FP10%
3層　黒褐色細砂層　砂層土40%

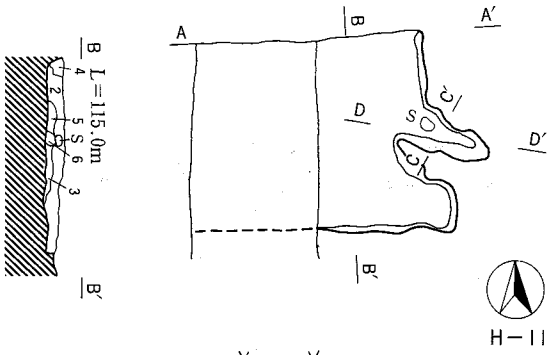
H－9号住居址竈層序説明
1層　暗褐色細砂層　焼土10%
2層　褐色細砂層　焼土25%
3層　黒褐色細砂層　黒色灰10%

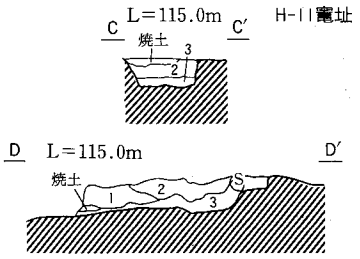


H－10号住居址層序説明
1層　黒褐色粗砂層　As-C・Hr-FP10%、焼土・炭化物極少
2層　暗赤褐色細砂層　As-C10%、Hr-FP 5 %
3層　黒褐色細砂層　As-C 5 %、焼土極少
4層　暗赤褐色細砂層　As-C・Hr-FP10%、焼土・炭化物極少
5層　黒褐色細砂層　As-C 5 %、砂層土極少

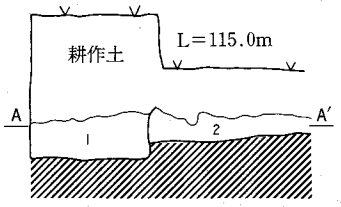
H－10号住居址竈層序説明
1層　暗褐色細砂層　焼土極少
2層　黒褐色細砂層　焼土20%
3層　黒褐色微砂層　灰20%、焼土混じり

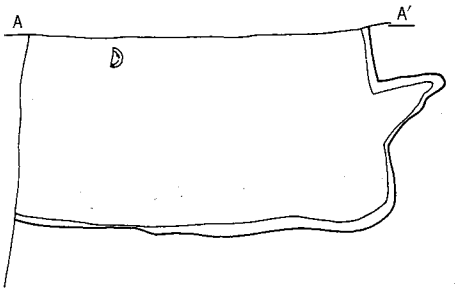
Fig. 9　H-8～10号住居址





H－22



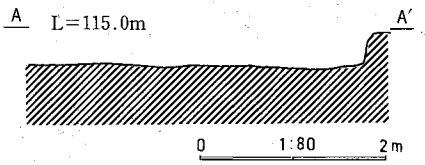


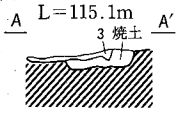
H－11号住居址層序説明

1層　暗褐色細砂層　As-C・Hr-FP20%
2層　黒褐色細砂層　As-C・Hr-FP20%、砂層土・炭化物極少
3層　黒褐色細砂層　As-C・Hr-FP15%
4層　暗褐色細砂層　As-C・Hr-FP20%、砂層土30%
5層　黒褐色細砂層　As-C・Hr-FP30%、砂層土20%
6層　暗褐色細砂層　砂層土30%、粘性強

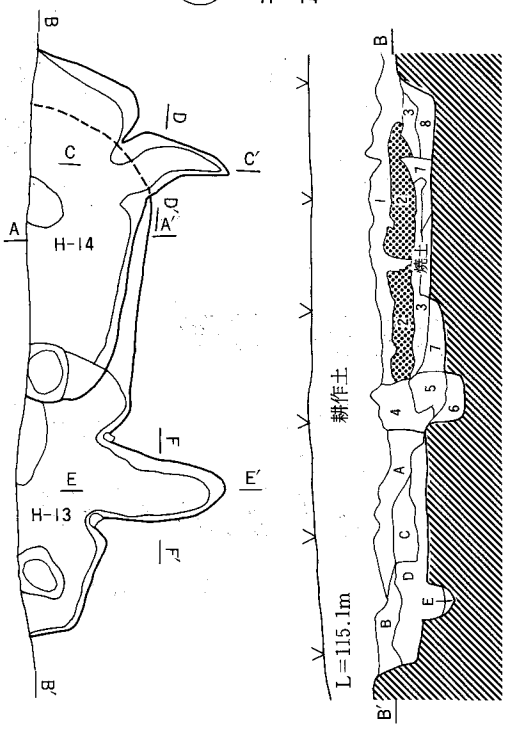
H－11号住居址竈層序説明

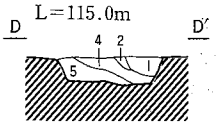
1層　褐灰色細砂層　粘土30%
2層　暗褐色細砂層　As-C10%、焼土5%
3層　黒褐色細砂層　焼土10%、灰20%

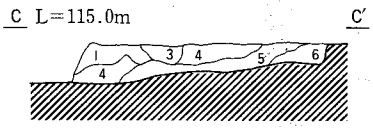




H－13
H－14





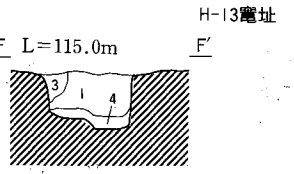


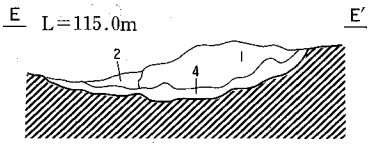
H－14号住居址層序説明

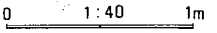
1層　暗褐色細砂層　As-B30%
2層　黒褐色粗砂層　As-B軽石100%
3層　黒褐色細砂層　As-C5%
4層　暗褐色細砂層　砂層土5%
5層　黒褐色細砂層　As-B極少、砂層土5%
6層　黒褐色細砂層　砂層土と黒色土の混じり
7層　褐色細砂層　砂層土20%
8層　暗褐色細砂層　As-C・砂層土5%

H－14号住居址竈層序説明

1層　黒褐色細砂層　砂層土3%
2層　黒褐色粗砂層　As-B30%
3層　暗褐色細砂層　焼土20%
4層　暗褐色細砂層　焼土30%
5層　暗褐色細砂層　焼土極少
6層　黒褐色細砂層　As-C極少、黒色土主体







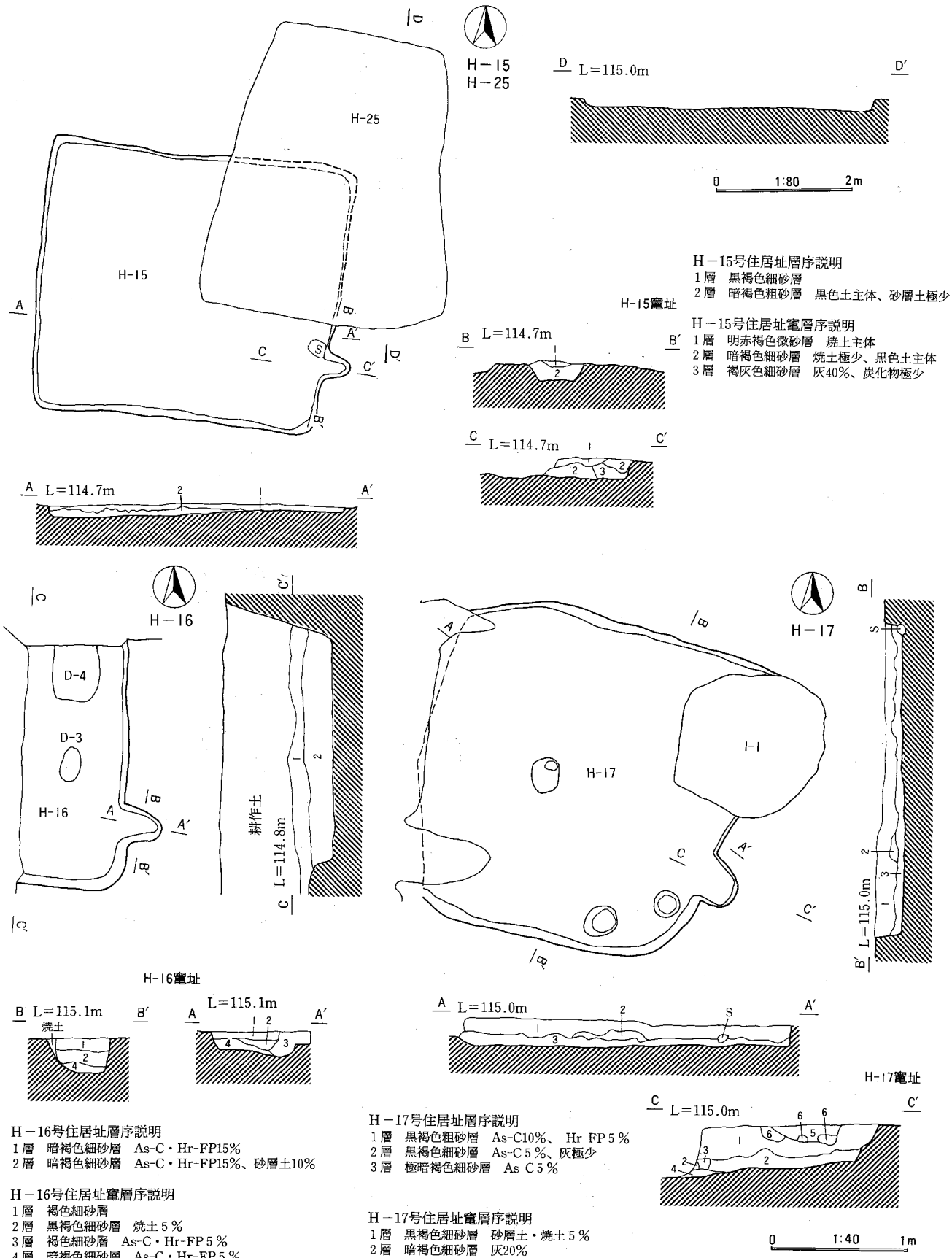
H－13号住居址層序説明

A層　暗褐色細砂層　As-B30%
B層　黒褐色細砂層　As-C・Hr-FP10%
C層　黒褐色細砂層　As-C・Hr-FP10%
D層　暗褐色細砂層　As-B10%、As-C極少
E層　暗褐色細砂層　As-B・砂層土極少

H－13号住居址竈層序説明

1層　褐色細砂層　焼土40%
2層　黒褐色細砂層　焼土・黒色土混じり
3層　暗褐色細砂層　焼土極少、黒色土主体
4層　黒褐色細砂層　焼土極少、黒色土主体

Fig.10　H-11・13・14・22号住居址



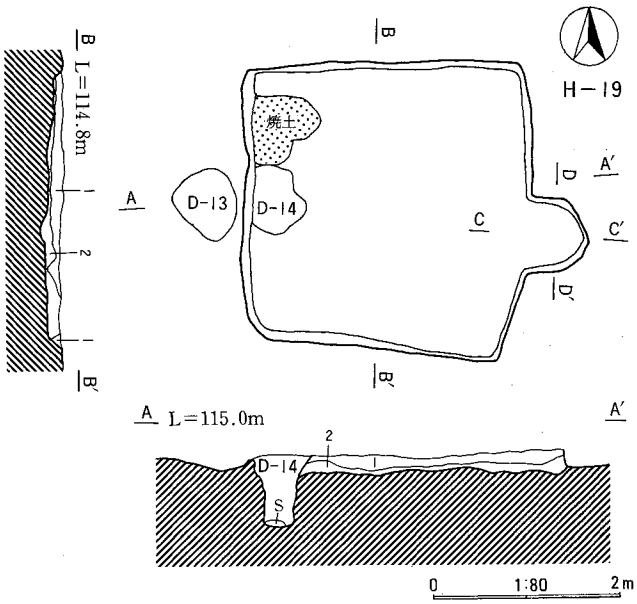
H－16号住居址層序説明
1層 暗褐色細砂層 As-C・Hr-FP15%
2層 暗褐色細砂層 As-C・Hr-FP15%、砂層土10%

H－16号住居址竈層序説明
1層 褐色細砂層
2層 黒褐色細砂層 焼土5%
3層 褐色細砂層 As-C・Hr-FP5%
4層 暗褐色細砂層 As-C・Hr-FP5%

H－17号住居址層序説明
1層 黒褐色粗砂層 As-C10%、 Hr-FP5%
2層 黒褐色細砂層 As-C5%、灰極少
3層 極暗褐色細砂層 As-C5%

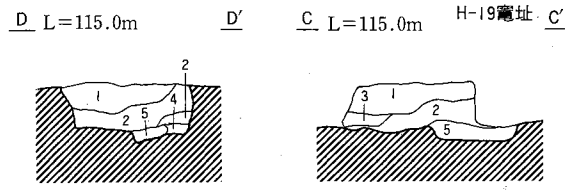
H－17号住居址竈層序説明
1層 黒褐色細砂層 砂層土・焼土5%
2層 暗褐色細砂層 灰20%
3層 褐色細砂層 焼土10%、砂層土主体
4層 明赤褐色微砂層 焼土主体
5層 暗褐色細砂層 焼土混じり
6層 赤褐色微砂層 焼土主体

Fig.11 H-15～17・25号住居址



H－19号住居址層序説明
1層　灰黄褐色細砂層　砂層土混じり、焼土極少
2層　黒褐色細砂層　黒色土主体、砂層土混じり

H－19号住居址竈層序説明
1層　暗褐色細砂層　砂層土極少
2層　黒褐色細砂層　焼土５％
3層　黒褐色細砂層　砂層土15％
4層　黒褐色細砂層　灰10％
5層　暗褐色細砂層　焼土30％

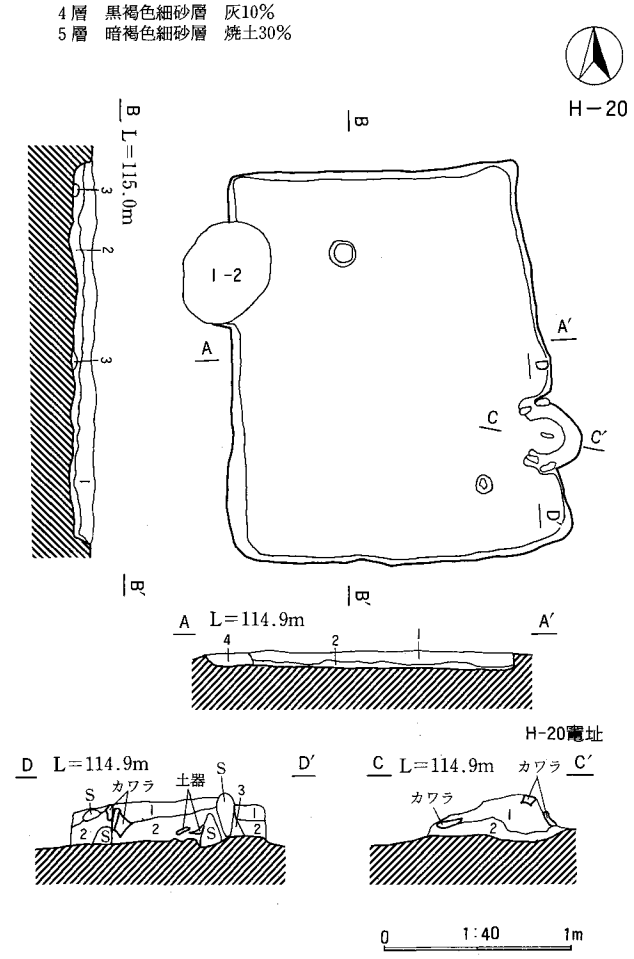


H－20号住居址層序説明
1層　暗褐色細砂層　As-C・Hr-FP20％、砂層土10％
2層　黒褐色細砂層　As-C・Hr-FP極小、砂層土混じり
3層　黄褐色細砂層　砂層土主体
4層　黒褐色細砂層　As-C５％、砂層土混じり

H－20号住居址竈層序説明
1層　暗褐色細砂層　As-C５％、砂層土20％
2層　黒褐色細砂層　砂層土・灰極少
3層　褐色細砂層　砂層土30％

H－21号住居址層序説明
1層　暗褐色細砂層　As-C25％
2層　暗褐色細砂層　焼土極少
3層　明赤褐色細砂層　焼土
4層　黒褐色細砂層　As-C極少
5層　暗褐色細砂層　As-C極少

H－21号住居址竈層序説明
1層　暗褐色細砂層　As-C・Hr-FP10％、焼土５％
2層　黒褐色細砂層　焼土20％
3層　暗褐色細砂層　焼土極少



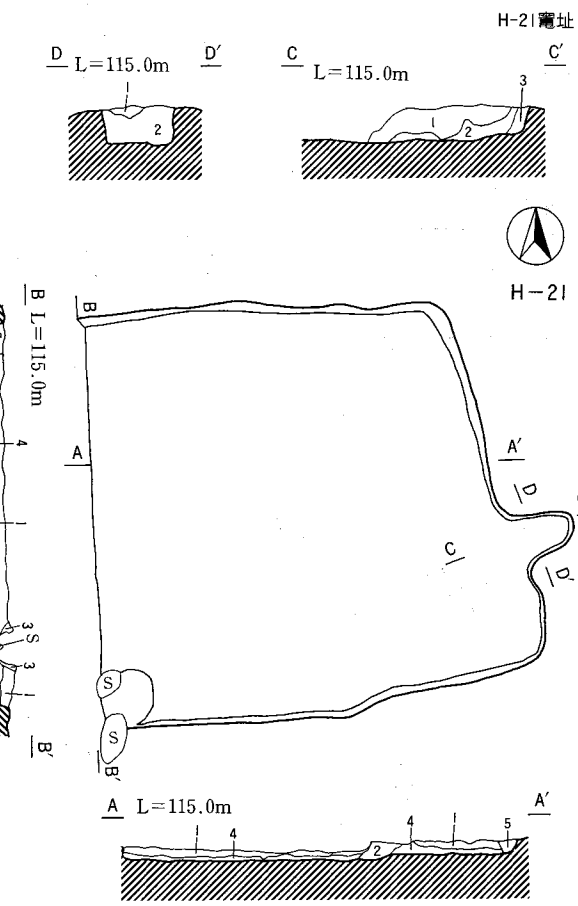


Fig.12　H-19～21号住居址

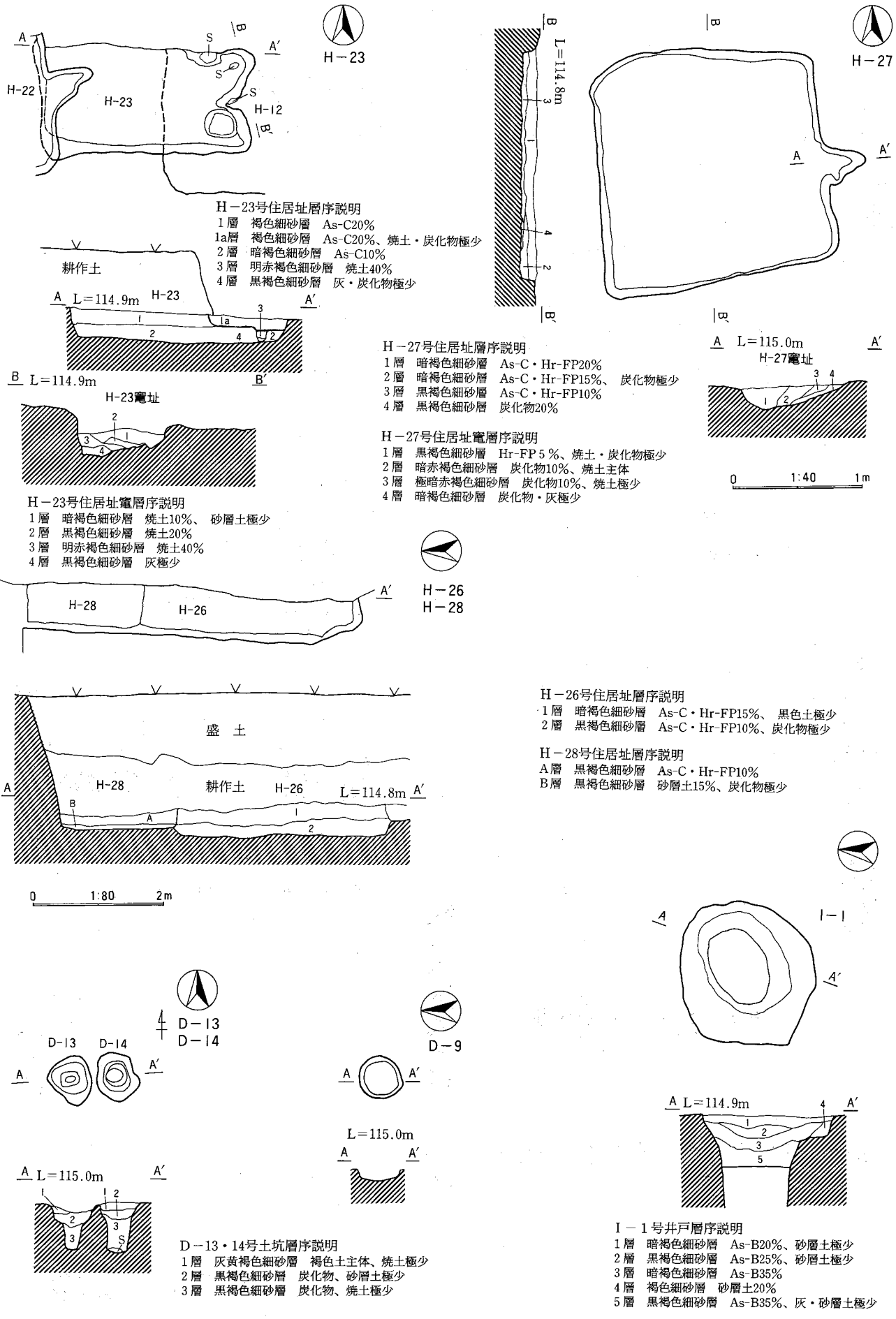


Fig.13　H-23・26～28号住居址、D-9・13・14号土坑、I-1号井戸

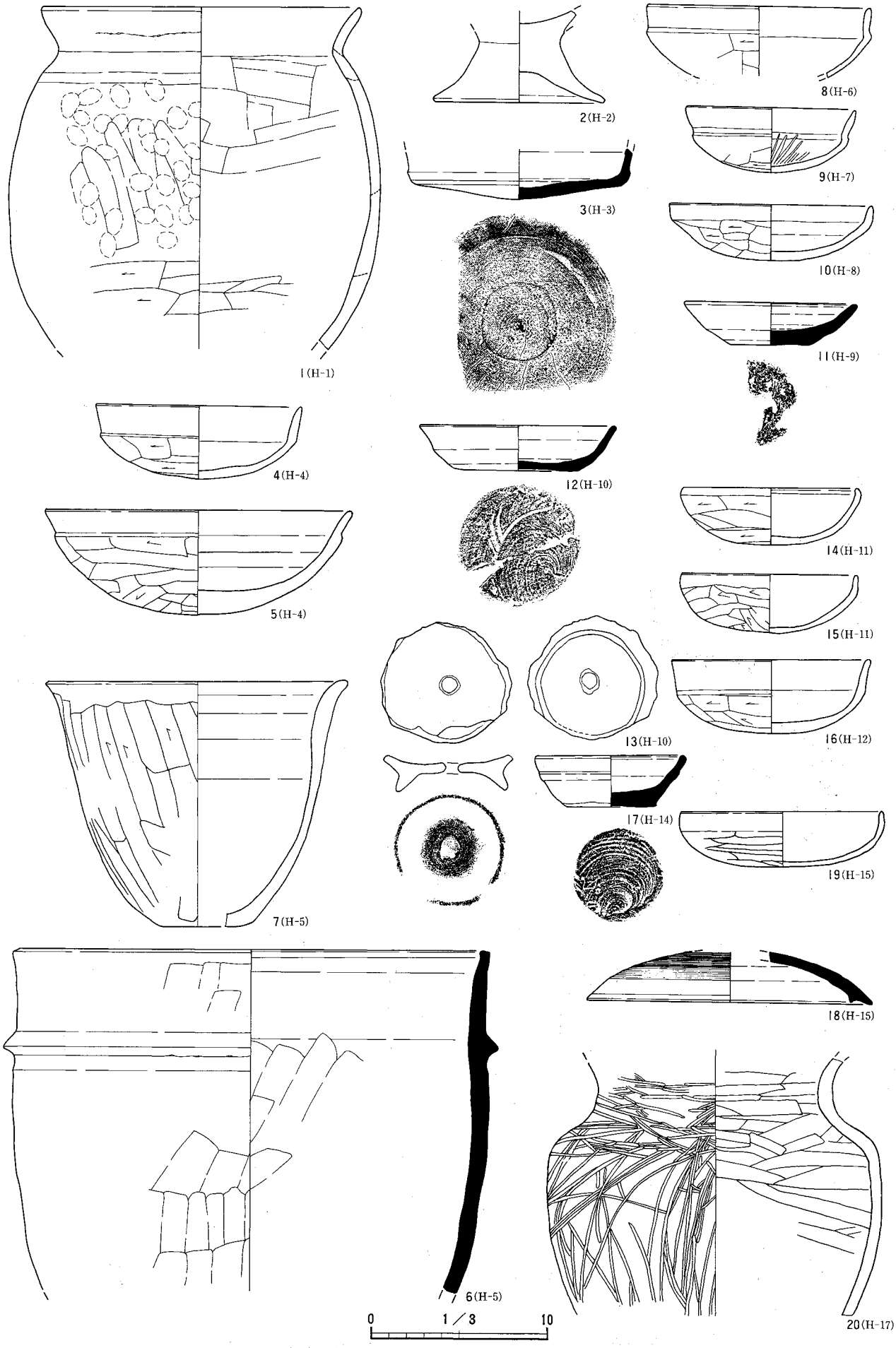


Fig.14　H-1～12・14・15・17号住居址出土の土器

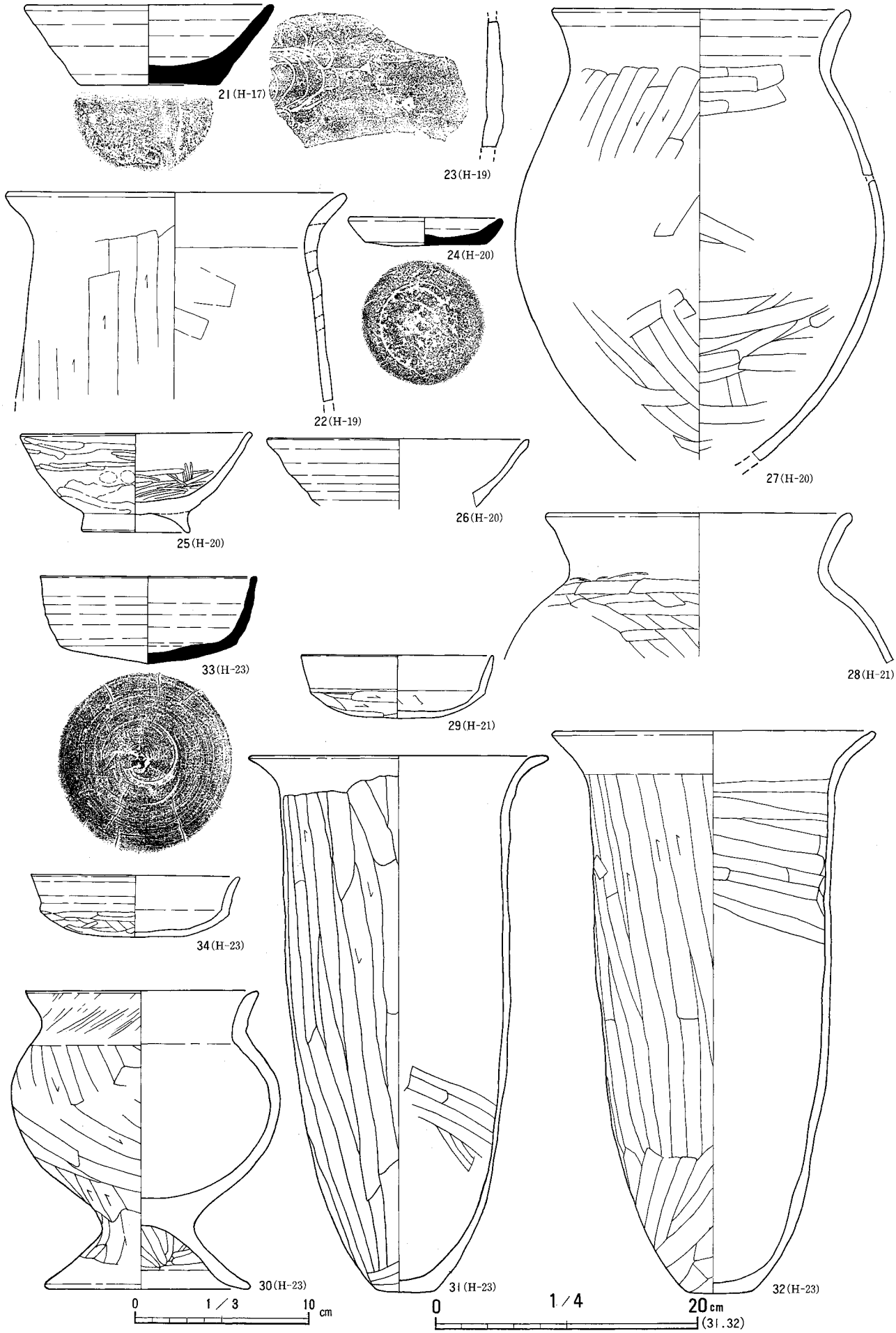


Fig.15　H-17•19～21•23号住居址出土の土器

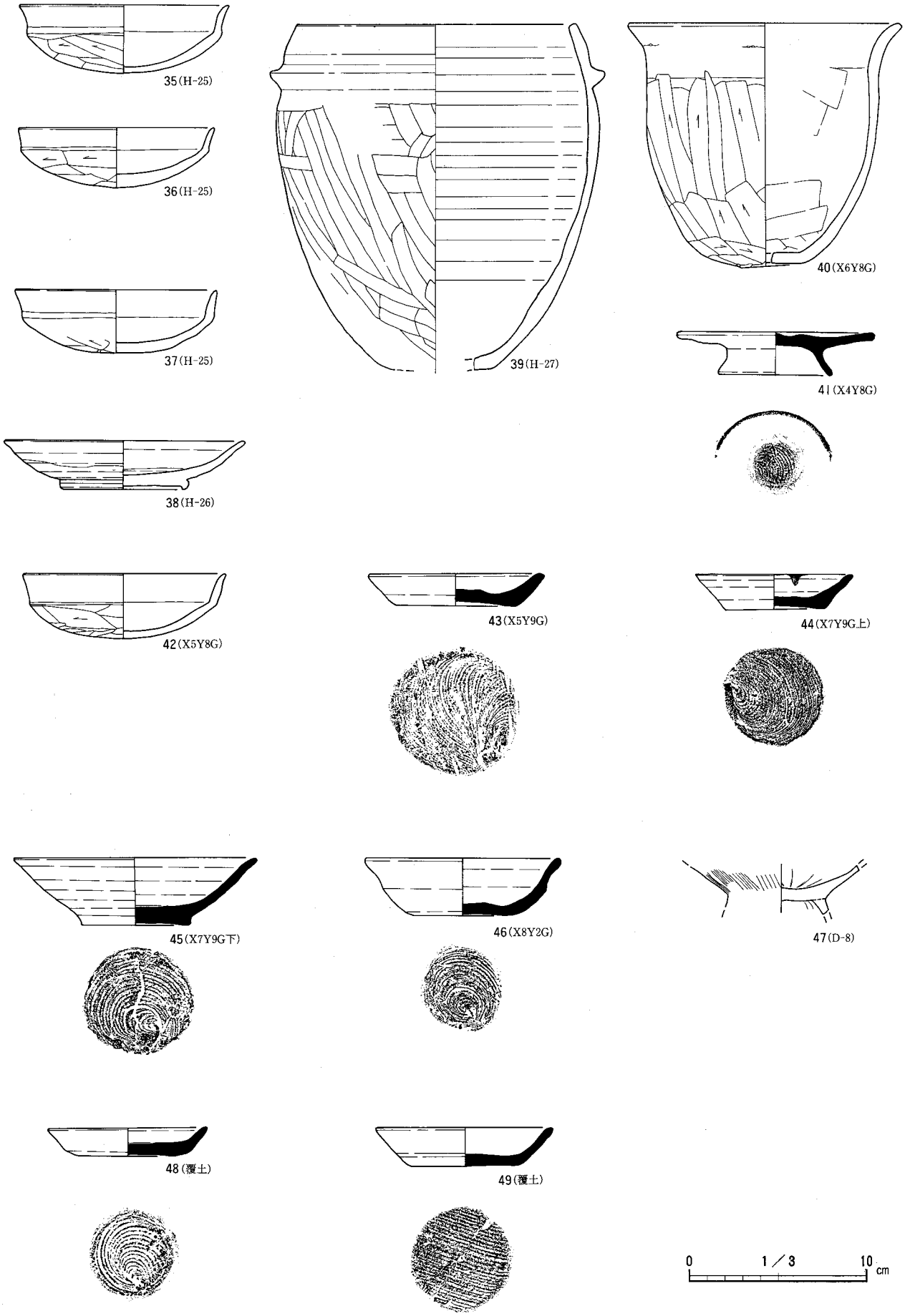


Fig.16 H-25～27号住居址、グリッド、D-8号土坑出土の土器

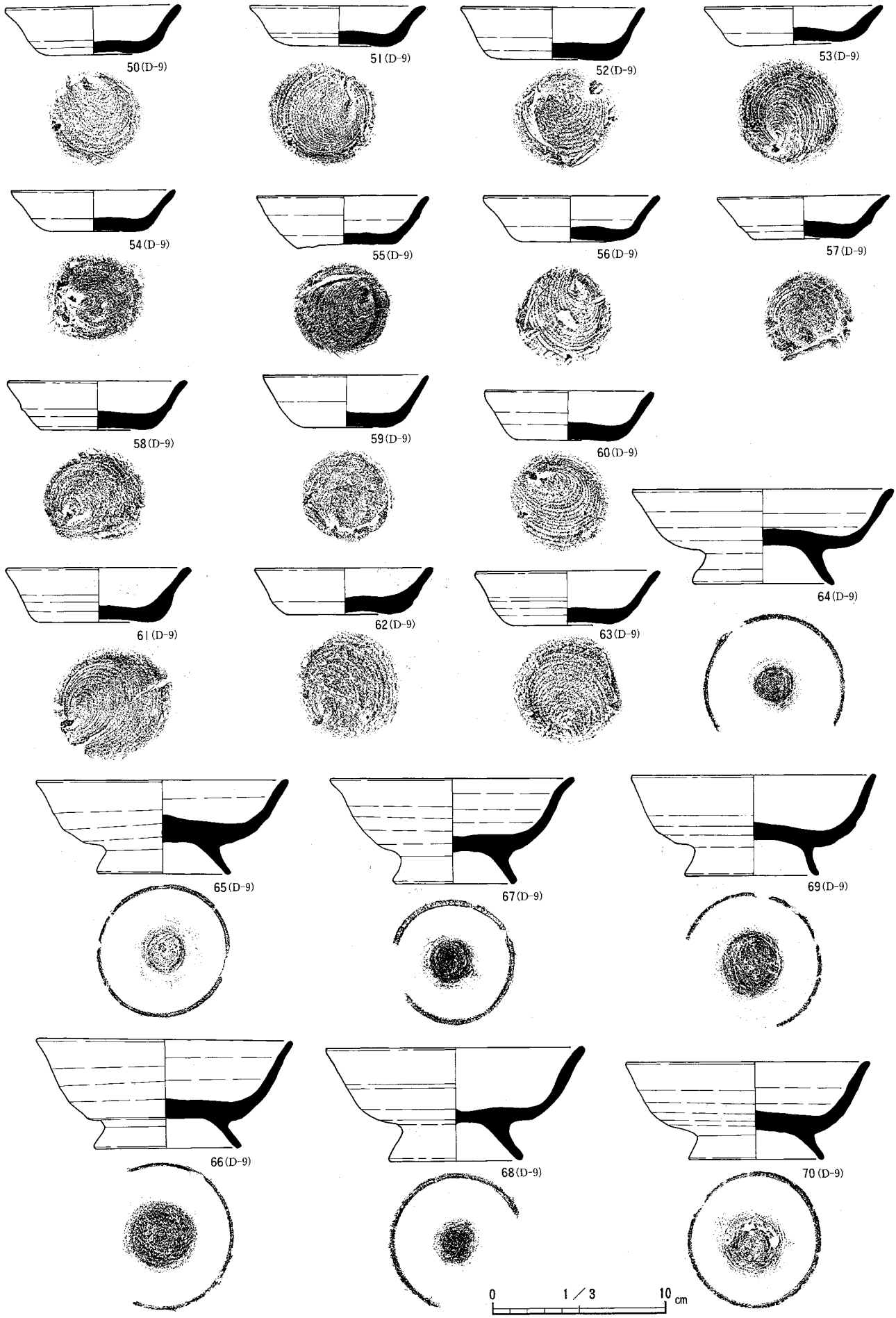


Fig.17　D-9号土坑出土の土器

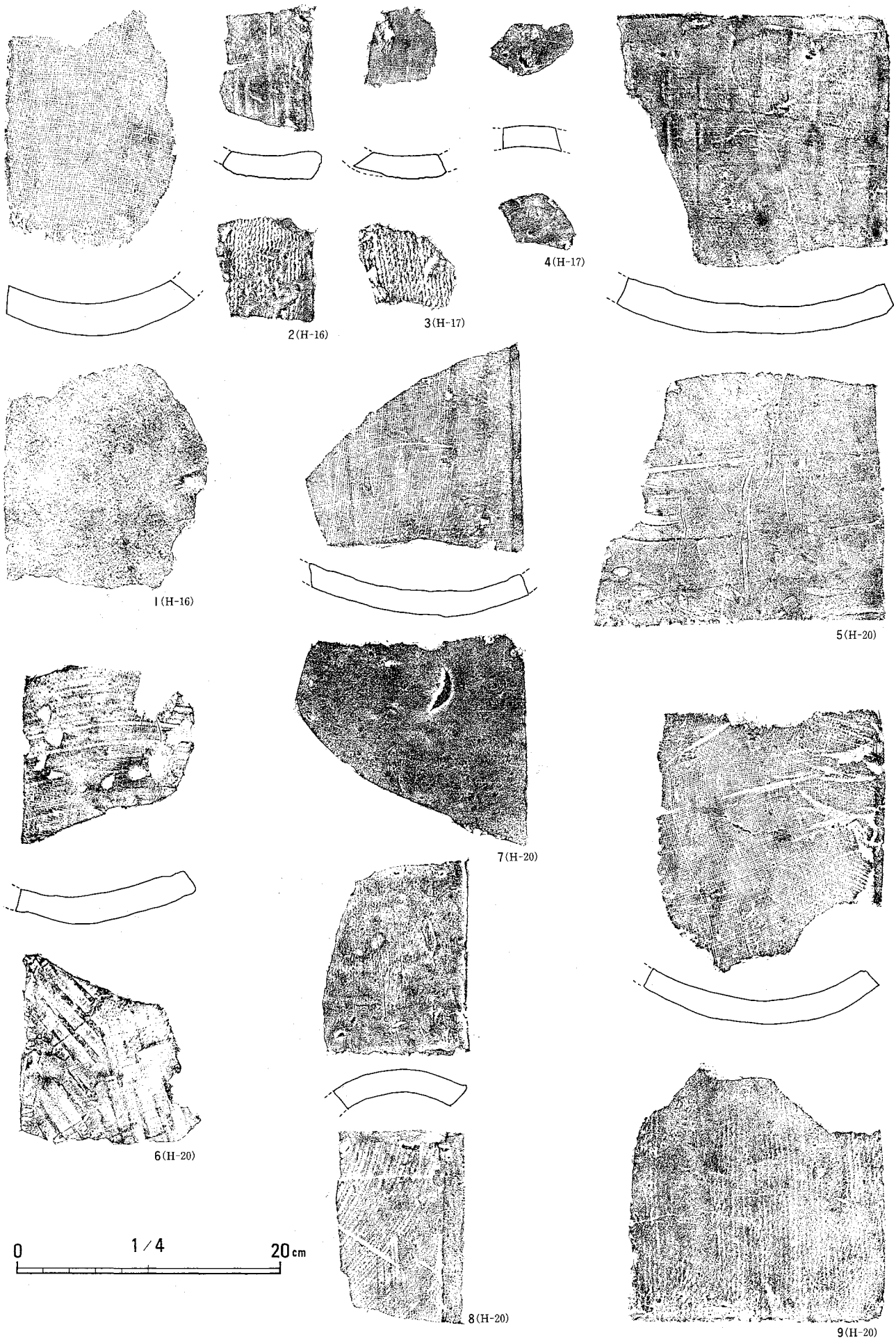


Fig.18　H-16・17・20号住居址出土の瓦(1)

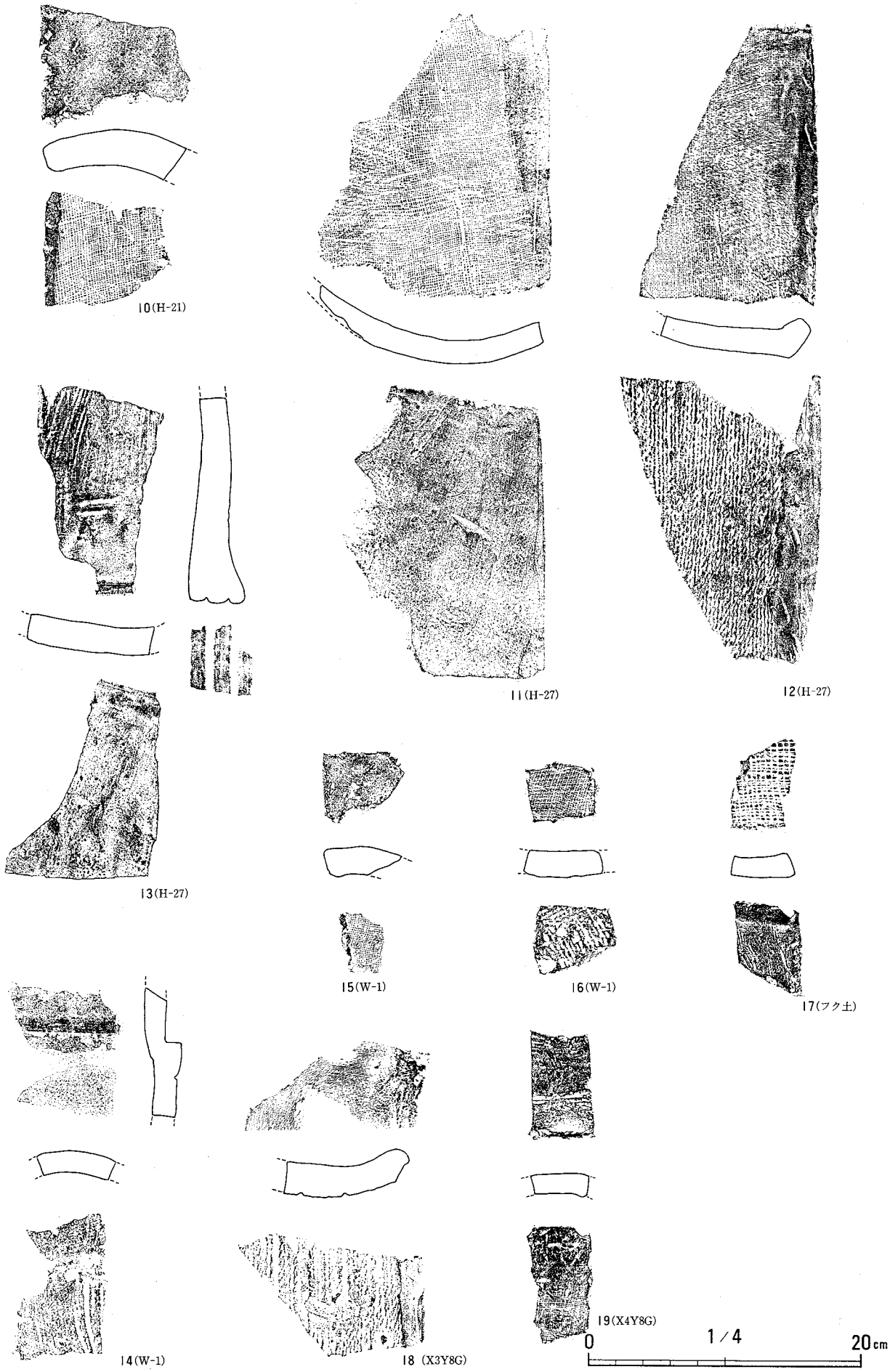


Fig.19 H-21・27号住居址、W-1号溝址、グリッド出土の瓦(2)

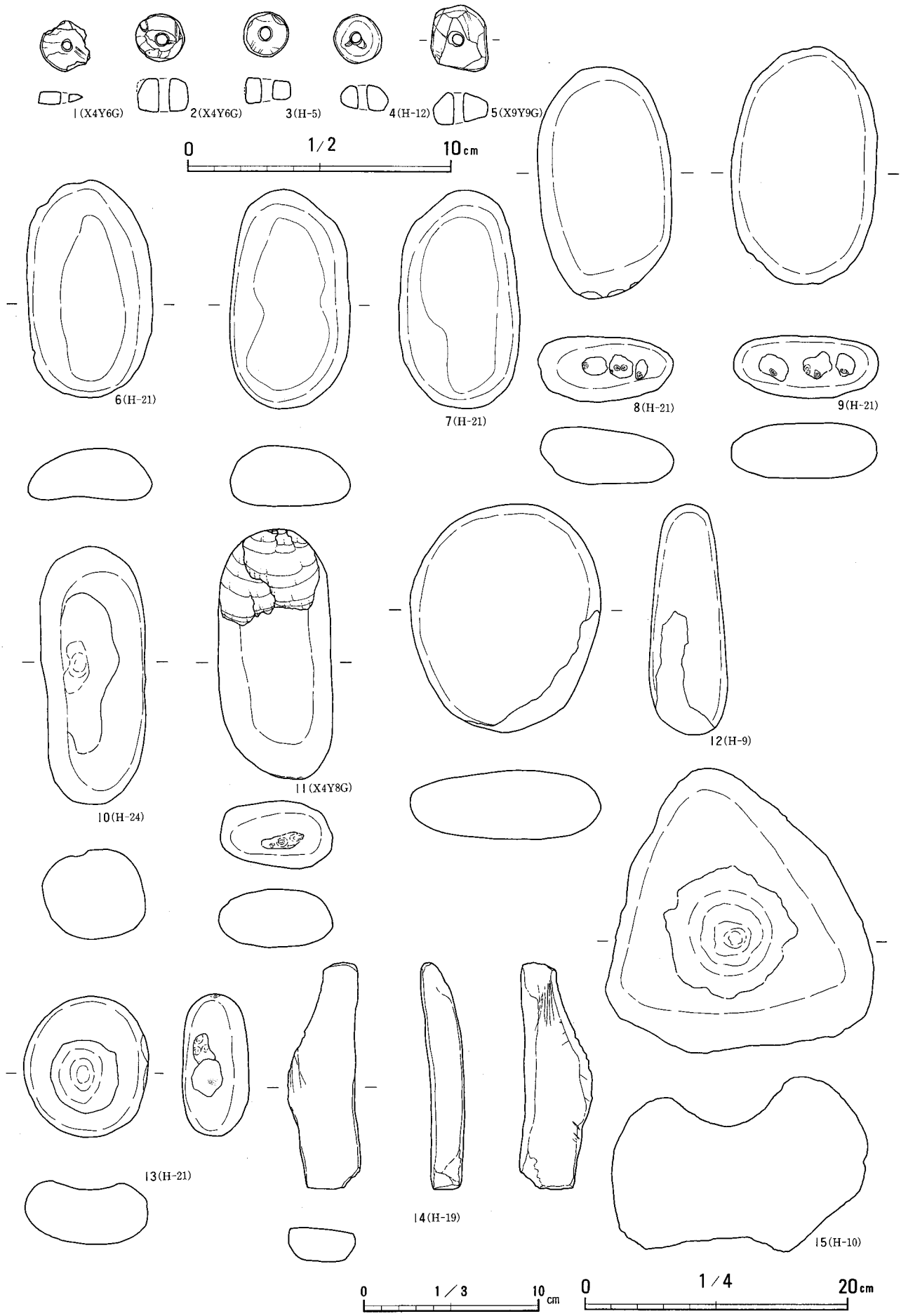

1(X4Y6G)
2(X4Y6G)
3(H-5)
4(H-12)
5(X9Y9G)
0
1/2
10cm
6(H-21)
7(H-21)
8(H-21)
9(H-21)
10(H-24)
11(X4Y8G)
12(H-9)
13(H-21)
14(H-19)
15(H-10)
0
1/3
10cm
0
1/4
20cm

Fig.20　臼玉・石器

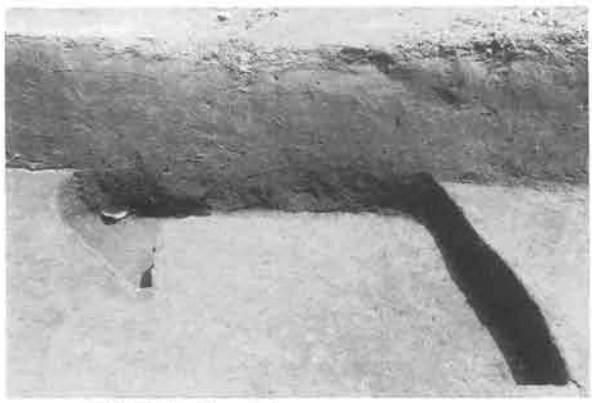
調査区全景（南から）

調査区全景（北から）

調査前風景（南から）

柱穴(P37～P46)列(北から)

柱穴列全景(西から)

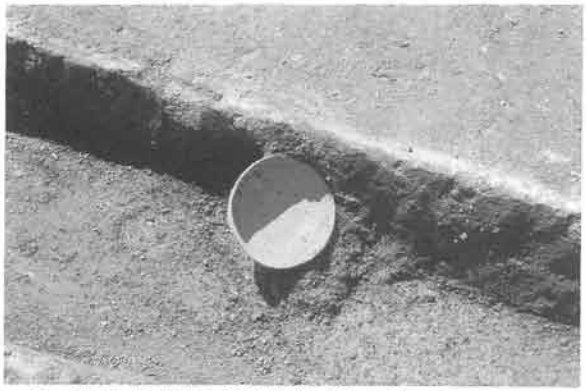


H-1号住居址（北から）

H-2号住居址（南から）

H-3号住居址（北から）

H-4号住居址（東から）



H-4号住居址遺物出土状態（北から）

H-5号住居址（西から）

H-6号住居址（東から）

H-7号住居址（西から）

H-8号住居址（西から）

H-9号住居址（西から）

H-9号住居址の竈（西から）

H-9号住居址遺物出土状態（北から）

H-10号住居址（西から）

H-11号住居址（西から）

H-11号住居址の竈（西から）

H-11号住居址遺物出土状態（西から）

H-12号住居址南北セクション(東から)

H-12号住居址遺物出土状態（北から）

H-13•14号住居址（南から）

H-15号住居址（南から）

H-16号住居址（西から）

H-17号住居址（西から）

H-17号住居址の竈（西から）

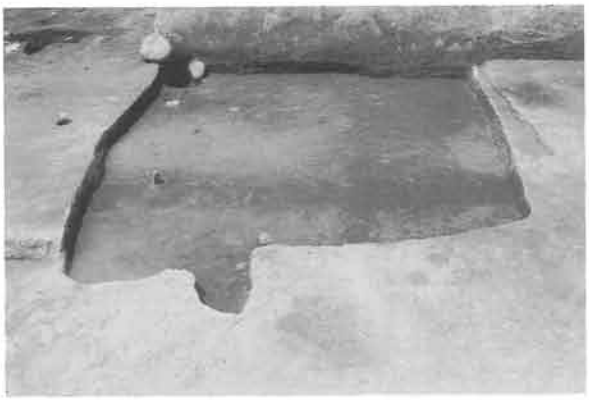
H-17号住居址遺物出土状態（南から）

H-19号住居址（東から）

H-20号住居址（西から）

H-20号住居址の竈遺物出土状態（東から）

H-20号住居址遺物出土状態（南から）



H-21号住居址（東から）

H-21号住居址遺物出土状態（東から）

H-22号住居址（西から）

H-23号住居址（南から）

H-23号住居址の竈遺物出土状態（西から）

H-23号住居址の竈遺物出土状態（北から）

H-25号住居址（東から）

H-25号住居址遺物出土状態（南から）

H-25号住居址遺物出土状態（南から）

H-26・28号住居址（北から）

H-27号住居址（西から）

X 5 Y 9 G遺物出土状態（北から）

W-1号溝（南から）

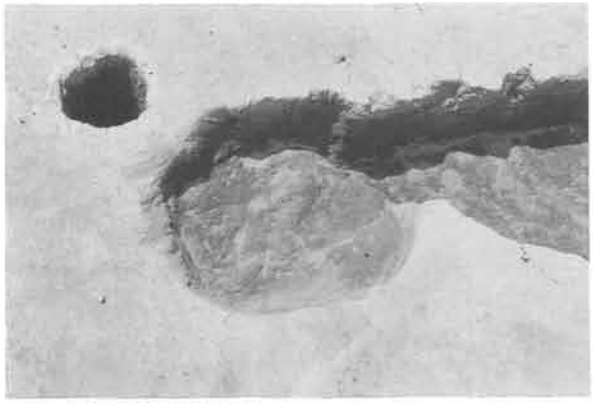
I-1号井戸（北から）

D-8号土坑（北から）

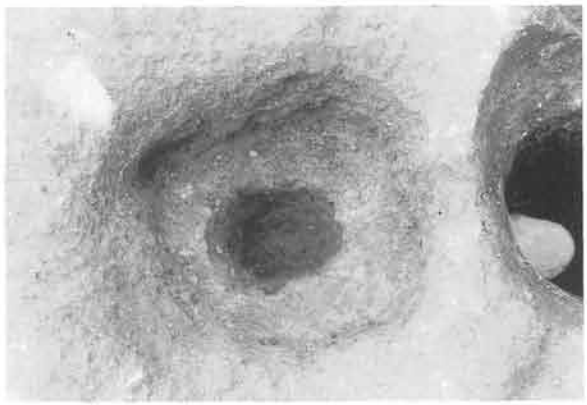
D-9号土坑遺物出土(第一面)状態（北から）

D-9号土坑遺物出土(第一面)状態（西から）

D-9号土坑遺物出土(第二面)状態（北から）



D-9号土坑（北から）



D-13号土坑（南から）

D-14号土坑（南から）

記念撮影

1
(H-1)

2
(H-2)

3
(H-3)

5
(H-4)

6
(H-5)

4
(H-4)

7
(H-5)

8
(H-6)

9
(H-7)

10
(H-8)

11
(H-9)

12
(H-10)

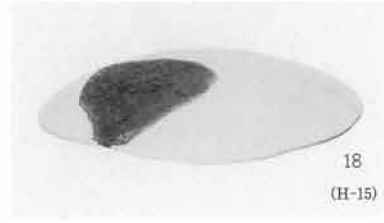
13
(H-10)

14
(H-11)

15
(H-11)

16
(H-12)

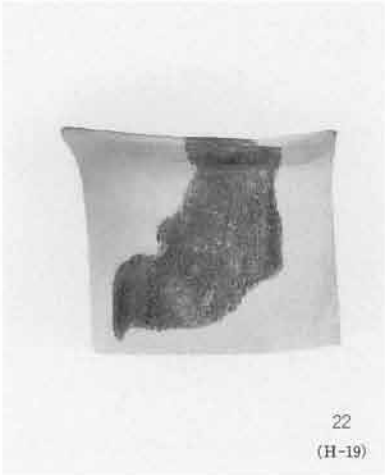
17
(H-14)


18
(H-15)

19
(H-15)

20
(H-17)

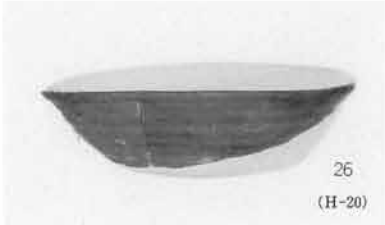
21
(H-17)


22
(H-19)

23
(H-19)

24
(H-20)

25
(H-20)


26
(H-20)

29
(H-21)

27
(H-20)

28
(H-21)

30
(H-23)

31
(H-23)

32
(H-23)

33
(H-23)

34
(H-23)

35
(H-25)

36
(H-25)

37
(H-25)

38
(H-26)

39
(H-27)

40
(X 6 Y 8 G)

41
(X 4 Y 8 G)

42
(X 5 Y 8 G)

43
(X 5 Y 9 G)

44
(X 7 Y 9 G上)

45
(X 7 Y 9 G下)

46
(X 8 Y 2 G)

48
(覆土)

石15
(H-10)

47
(D-8)

49
(覆土)

50
(D-9)

51
(D-9)

52
(D-9)

53
(D-9)

54
(D-9)

55
(D-9)

56
(D-9)

57
(D-9)

58
(D-9)

59
(D-9)

60
(D-9)

61
(D-9)

62
(D-9)

63
(D-9)

64
(D-9)

65
(D-9)

66
(D-9)

67
(D-9)

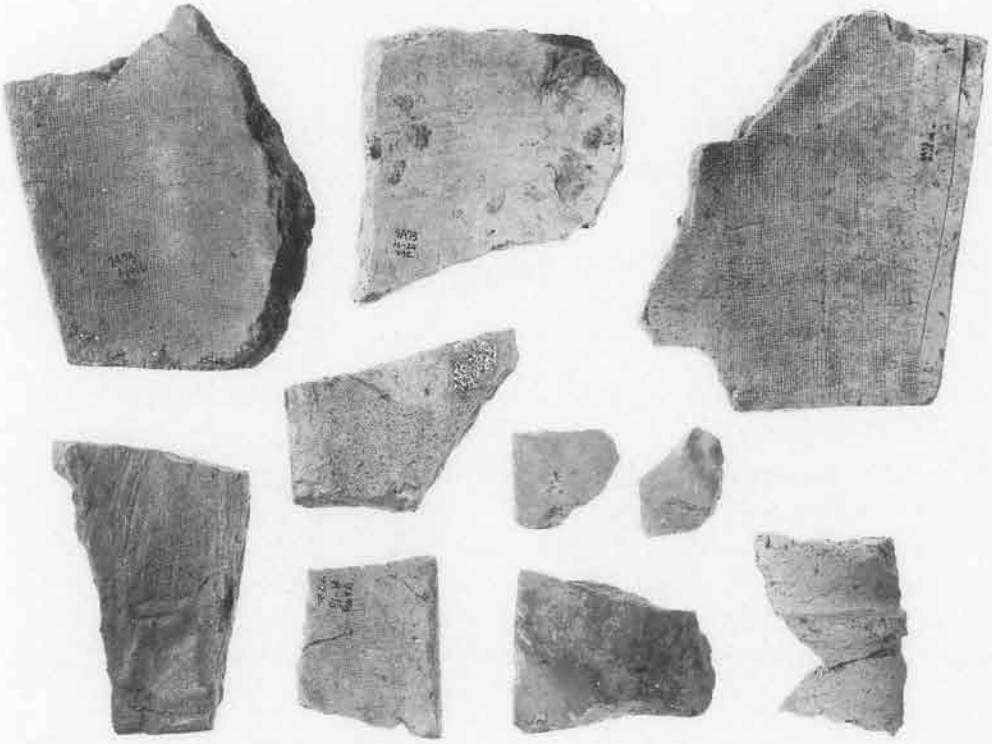
68
(D-9)

69
(D-9)

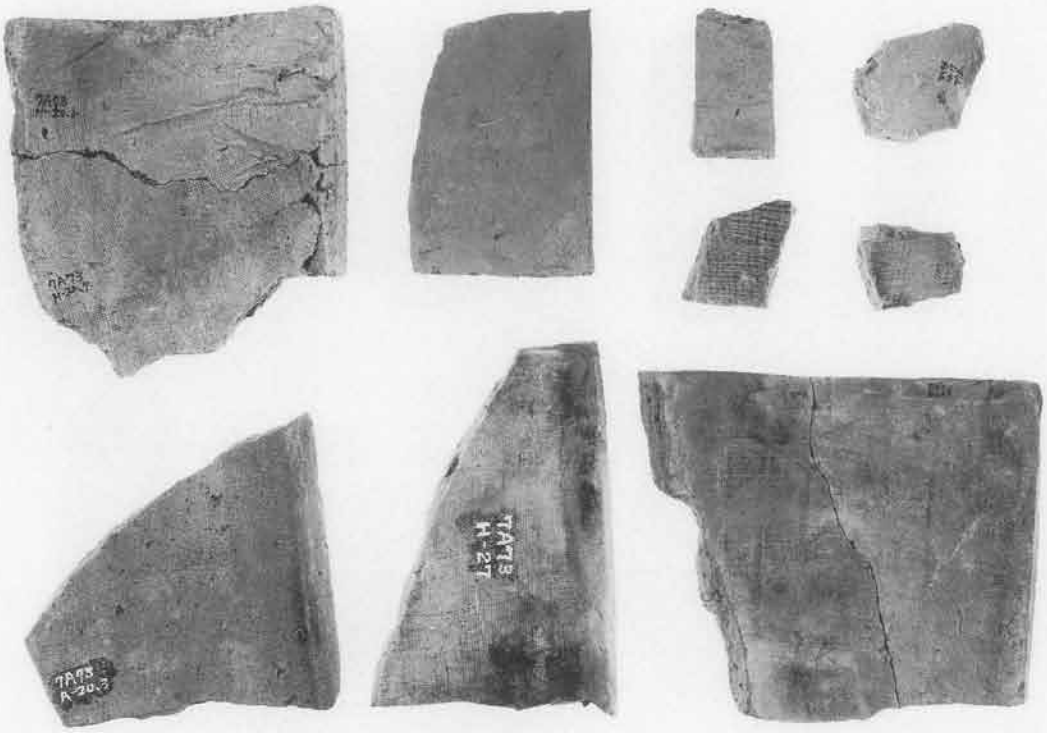
70
(D-9)

1．白　玉

2．石器



1．瓦



2．瓦

抄　　録

フリガナ	ヤシキニイセキ
書名	屋敷II遺跡
副書名	公共開発（社会福祉複合施設建設）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第1巻
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	戸所慎策　吉田聖二
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371　群馬県前橋市上泉町664-4
発行年月日	1996（平成8）年3月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ヤシキニ 屋敷II	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町2578-88ほか	10201	7A73	36°23′10″	139°02′30″	19950605 19950823	589.4m²	公共開発

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
屋敷II遺跡	集落跡 外	古墳時代後期 ～中世	竪穴式住居址26軒、井戸2基、土坑20基、柱穴50基ほか	土師器、須恵器、瓦、臼玉等	柱穴はAs-Bの火山灰を含む。D―9号土坑はカワラケ28個、高台椀11個出土。

屋敷II遺跡

平成8年3月18日　印　刷
平成8年3月25日　発　行
編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町664-4
TEL　0272-31-9531
印　　刷　上毎印刷工業株式会社